

# 室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations  
Muroran Institute of Technology

## 2013年度

# 活動報告書

Annual Report, 2013



## 目 次

1. 報告書の発刊にあたって	1
国際交流センター長（理事・副学長） 加賀屋 誠一	
2. 国際交流ポリシー	3
3. 国際交流センターの業務	4
4. 国際交流センターの組織	5
5. 学内及び学外の会議等	8
6. 国際学術交流	13
7. 外国人留学生	17
8. 国際交流センター教員が担当した講義	26
9. 室蘭工業大学国際セミナー	30
10. 留学生を対象とした行事，研修等	31
11. 学術交流協定校との交流	40
12. 学生の海外への派遣	47
13. 外国人短期研修生・外国人研究員・外国人インターンシップ研修生受入れ	56
14. 国際交流クラブ	58
15. 広報活動	59
16. 教員の研究活動	61
17. 国際交流センターに関する新聞記事等	63
18. おわりに	67

国際交流センター准教授 山路 奈保子

## 1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長(理事・副学長) 加賀屋誠一

### 【本報告の趣旨】

本報告書は、各年度の国際交流センターの活動と成果並びに課題をまとめ記録し、大学当局への報告とすることを目的として、2009年度から発刊されてきているものです。今年度で5年目を迎えました。またこの報告書は、これまで学内の教職員、学生にも広く配布公開されており、そのことによって国際交流とその活動に対する理解や支援をいただいております。同時に、これまでいただいた数多くの意見や提言に基づき、本学の国際交流活動のさらなる発展につなげてきております。すなわち、ある意味でPDCAサイクルを利用して活動の改善の役割を果たすものとして考えられます。これまで海外からの研究者や留学生の受け入れや、本学教職員、学生の海外派遣においても制度や取り組みに有益な提言が寄せられており、それらを有効に活用しながら改善を図ってきております。さらに本報告書は、当センターの活動のみではなく、より広範に全学的な国際交流活動の記録としても重要なものとなっております。できあがった報告書は、周辺の広域的な地域社会並びに全国の関係機関にも配布を行い、本学の国際交流活動を多くの方々に発信、広報を行ってきております。

このような観点から、本報告書が多くの人々に読まれることで、室蘭工業大学全体の国際交流活動をますます活性化させ、本学の教育と研究のグローバル化、高度化に貢献することを期して願うものであります。

### 【本年度の成果の概略】

この1年間、室蘭工業大学の国際交流活動に関連し、多くの成果がありました。その基本的な方向性は、平成23年度に制定された本学の国際交流規範というべき国際交流ポリシーとその具体的な行動指針である国際交流アクションプログラムに示されております。これは国際交流センターの行動指針であるとともに、より広く全学の関係委員会・グループの協力のもとに国際交流活動を進めていくことを目指すものです。すなわち、相互に連携協力しあいながら国際交流活動を推進していくことを目的としているのです。今年度は、その活動を具体的な工程表として、目標達成を目指すことを国際交流委員会として取りまとめました。

次に、今年度も数多くの学術交流協定校の拡大と更新が行われました。中華人民共和国(中国)の曲阜師範大学、イギリスのキングストン大学、さらにフィンランドのラップランド大学と同大アークティックセンターと新たな協定が結ばれました。また中国の内モンゴ師範大学、北京科技大学、アメリカ合衆国のウェスタンワシントン大学、ポーランドのAGH大学、ロシアのニコライエフ研究所・産業総合研究所との三者間協定の更新が行われました。現在37の大学等及び機関との間で、国際学術交流協定の締結がなされております。キングストン大学、ラップランド大学には本学の学長および教職員が訪問し、交流締結の調印を行いました。また華中科技大学には、教職員を派遣し今後の交流について直接話し合いを持ちました。またウェスタンワシントン大学および北京科技大学からは調印式に学長以下が本学を訪問し、今後の交流のきずなを確かめました。さらに今後の新たな交流の礎を作るため、本学教員がブラジルパラナ連邦工科大学およびサンパウロ工学研究所を訪問し、調査を行いました。このような活動を軸に今後も量的、質的に進展した学術交流協定校との交流を進めていきたいと考えております。一方、学生の海外研修も活発に行われました。具体的にはオーストラリアのロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)との語学研修交流、ヨ

ヨーロッパ語学研修に多くの学生が、今年も参加しました。また学術交流協定校主催のサマースクール、交流事業にも本学学生が参加しております。さらに学生の長期留学もヨーロッパの交流協定校を中心に進められてきております。このように派遣のプログラムも多様化し充実してきております。相互の語学研修ではRMITからの日本語研修生10名、泰日工業大学からの短期研修生2名の受け入れ、さらにインターンシップ研修生もロシア、中国、韓国、ウクライナ、インド、ドイツなどから受け入れました。留学生も年々増加していますが、来年度初めには123名を数えるほどになります。このように学生の受け入れ、派遣については国際交流をめぐる日本の政策のあり方とも関係しておりますが、活動が活発となってきております。留学生やインターンシップ学生の増加により、宿舎関係も込み合う状態となっており、昨年開設された「国際交流会館」の利用も多く、運営も順調であるといえます。しかしながら、予想される留学生や外国人研究者の増加に伴って、宿泊施設の整備充実が必要で、今後の検討課題であると言えます。

国際共同研究関係では、交流協定校タイのチェンマイ大学と11月14日から17日まで合同セミナー「MIER2013」を共同で開催しました。また日本学術振興会二国間交流事業共同セミナーに採択され、6月26日から28日の3日間にわたり、交流協定校であるフィンランド・アアルト大学の教員を含む24名の研究者が参加し、研究発表・討論を実施しました。さらに、日本学術振興会海外特別研究員に教員1名が採用となり、ドイツに派遣され研究を実施しております。

文部科学省においても国際交流への対応として、卒業生、修了生に対する人的交流と情報発信を行うためのネットワークの充実の推進が図られておりますが、本学においても人的ネットワークの整備が進められてきております。Facebook やメール交信の頻度は増加しており、また特に関東地域に就職等で居住している留学生とは年1回の情報交換会をおこなっております。また海外、例えば中国における同窓会の集まりも実施しました。さらに今後の留学生確保のための進学説明会も、日本語学校に出向いておこなったり、交流協定校を訪れた際に、実施しております。このようなPR活動は交流促進に直結しており、今後機会のあるごとに進めていきたいと考えております。

以上、今年度の成果を総括してみましたが、次年度以降においても国際交流ポリシーを基に、そのアクションプログラムを1つ1つ実現しながら、留学生の活躍を支援し、また本学の日本人学生、教職員一体となり、教育・研究および社会連携にその成果を相乗的に発現できるように、センターとして努力してまいります。

## 【あしがき】

私としては、国際交流センター長として2年目を迎えました。あっという間の1年間であったと実感しております。業務の多さに驚きながら走り続けた感がありますが、何かにつけて、いろいろご迷惑をおかけし、不行き届きが多々あったと反省しております。にもかかわらず、本年もいろいろな側面で、センターも一つ大きくなったと感じておりますが、これもセンタースタッフの献身的な務めと国際交流委員会委員の皆様のご協力があったからこそと深く感謝申し上げます。また日頃、教職員の皆様には数多くのご支援をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。さらに今年も大きな国際交流の輪を構築していただいた留学生とそれに加わった日本人学生にも感謝したいと思います。そして今後も国際交流センターの活動及び、室蘭工業大学のグローバル化を推進していきたいと考えておりますので、皆様のより一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

## 2. 国際交流ポリシー

### 室蘭工業大学国際交流ポリシー

平成24年3月16日制定

(前文)

大学における研究活動のグローバル化はもとより、高等教育の国際市場化、大学卒業者雇用の国際化が進む情勢の中で、室蘭工業大学の国際交流の基本的な考え方を示し、教職員の活動、施策立案の指針とするために、本国際交流ポリシーを制定する。

1. 基本姿勢 室蘭工業大学は「幅広い教養と深い専門知識とともに国際社会で通用するコミュニケーション能力、実践力を持つ人材を育成する」との目標を実現し、本学の基本理念に基づいて国立大学として期待される国際的機能を果たすために、教育および研究における国際交流を推進する。

2. 教育 国際活動に必要なコミュニケーション能力とは、語学力のみでなく、積極性、行動力、本国および他国の文化に対する理解等を含む幅広い実践力であり、留学生を含む本学学生の全てがこのような能力を持つよう、教育上の努力をする。教職員もまた高いコミュニケーション能力を涵養し、国際的に貢献する。

3. 研究 教員は研究成果を世界に発信するとともに、海外機関との交流を推進して、研究の一層の活性化に努める。これはまた、学生の国際活動能力、研究能力向上のための教育活動でもあることを認識して研究を推進する。

4. 留学生受入れ 各種の留学生を積極的に招致する。学部留学生、大学院留学生、その他の短期留学生の適切な配分に留意し、本学の教育研究に資する優秀な学生の招致に努める。またそのための受入れ体制、教育体制の整備、更新を推進する。

5. 地域貢献 地域の国際交流に大学として貢献するとともに、地域の国際交流力を本学の国際活動、国際教育の推進に積極的に活用する。

6. 運営 上の国際交流推進のため、教育プログラム、施設および学習環境、広報および海外ネットワーク、事務体制およびリスク管理体制、ならびに、これらに必要な予算措置について、長期的な展望をもってその整備を進める。

(付記)

国際交流とは、本学教職員学生による教育、研究上の、海外機関および外国人との交流活動全般をさす。研究成果の国際的発信および研究教育上の交流、各種留学生の受入れと教育、本学学生の国際性教育に関わる外国機関、外国人との交流、事務職員の国際活動を含む。



### 3. 国際交流センターの業務

現在の国際交流センターの業務は次のとおりである。

#### (1) 国際交流事業に関すること

- ・ 外国の大学等との交流協定締結, 更新等の支援事務
- ・ 交流協定校等との交流事業, 行事の支援
- ・ 本学教職員の国際活動の支援
- ・ 本学学生の国際性教育の支援
- ・ 本学の国際交流推進に係わる企画と立案, その支援

#### (2) 外国人留学生に関すること

- ・ 留学生(正規生, 研究生, 聴講学生, 短期研修生, インターンシップ研修生を含む)の受入れ支援及び受入れの促進
- ・ 留学生に対する日本語教育その他の教育と, 共通教育及び専門教育の修学支援
- ・ 留学生のための宿舎など生活支援に係わる業務, 相談への対応
- ・ 留学生のための各種奨学金の広報, 応募, 申請, 配分支援などに係わる業務
- ・ 卒業, 修了者も含めた留学生との交流促進

#### (3) 外国人研究員に関すること

- ・ 外国からの研究員, 教職員の受入れ支援

#### (4) 学生の海外派遣に関すること

- ・ 本学学生の海外留学, 短期研修, 国際会議参加などの支援

#### (5) その他, 国際交流及び留学生に関すること

- ・ 国際交流に係わる他大学, 地域自治体, 諸機関との連携活動

## 4. 国際交流センターの組織

### 4.1 国際交流センターの構成員

2013年度(平成25年度)の国際交流センターの人員構成は、専任教員2名、事務職員3名、特定専門職員1名及び事務補佐員1名の計7名である。センター長は理事(連携担当)・副学長が兼務している。

国際交流センター長	加賀屋 誠 一(理事・副学長)
専任准教授	門 澤 健 也
専任准教授	山 路 奈保子
ユニットマネジャー 兼ユニットリーダー	武 井 正 弘
国際交流ユニット	武 川 梢
国際交流ユニット	遠 藤 仁 郎
特定専門職員	内 藤 直 子
事務補佐員	野 田 葉津希



左上段より、内藤 直子・宮下 慎也(現 総務グループ秘書ユニット)・武川 梢・遠藤 仁郎・野田 葉津希・門澤 健也・加賀屋 誠一・武井 正弘・山路 奈保子 (敬称略)

## 4.2 国際交流委員会

2010年度から、従来の兼任教員に代わり、新たに「国際交流委員会」が発足した。その任務は次のとおりである。また、議題の審議のみでなく、本学の国際交流に関連する企画立案、提言、事業実施への協力支援の機能も期待されている。

- (1) 国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
- (2) 外国人留学生の受入れに関すること。(外国人留学生入試に係わるものは除く。)
- (3) 外国人留学生の奨学金に関すること。
- (4) 学生の海外留学に関すること。
- (5) 外国人研究者の受入れに関すること。
- (6) 外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
- (7) その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所 属	職 名	氏 名
国際交流センター	センター長	加賀屋 誠 一
国際交流センター	准教授	門 澤 健 也
国際交流センター	准教授	山 路 奈保子
機械航空創造系学科	教授, 理事補	清 水 一 道
建築社会基盤系学科	教 授	大坂谷 吉 行
建築社会基盤系学科	准教授	吉 田 英 樹
機械航空創造系学科	講 師	廣 田 光 智
機械航空創造系学科	教 授	藤 木 裕 行
応用理化学系学科	教 授	中 野 博 人
応用理化学系学科	准教授	磯 田 広 史
情報電子工学系学科	教 授	中 根 英 章
情報電子工学系学科	教 授	鈴 木 幸 司
全学共通教育センター	教 授	桂 田 英 典
全学共通教育センター	准教授	ゲイナー ブライアン
国際交流センター事務室	ユニットマネジャー	武 井 正 弘



清 水 一 道



大坂谷 吉 行



吉 田 英 樹



廣 田 光 智



藤 木 裕 行



中 野 博 人



磯 田 広 史



中 根 英 章



鈴 木 幸 司



桂 田 英 典



ゲイナー ブライアン



### 4.3 センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は以下の図及び写真に示す事務室、談話室並びに 2 名の専任教員の教員室である。

2010 年度末に談話室の間仕切り工事をおこなった。留学生同士および留学生と学生、教職員の交流懇談を目的として 2 スパンの談話室が準備されているが、その半分が日本語教育の講義室ならびに国際交流委員会等の会議室として頻繁に利用されていることから、本来の機能が十分果たせていない状態であった。これを可動式の遮音壁で間仕切りし、かつセンター事務室との間にドアを設けて直接通行を可能にし、本来の交流談話の機能を十分に発揮することができるようにした。留学生教育に有効に使用することが期待されている。



学生対応の様子



学術交流協定校、学生からの記念品展示棚



国際交流センター談話スペース



日本語授業風景

## 5. 学内及び学外の会議等

### 5.1 国際交流委員会

国際交流委員会は、(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者。(2) 国際交流センター長。(3) 国際交流センター専任教員。(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員各2名。ただし、1名は教授とする。(5) 国際交流センター事務室長。(6) その他学長が必要と認めた者で組織される。

2013年度の国際交流委員会の開催日及び審議事項等は以下のとおりである。

#### 第1回 4月23日(火)(持ち回り)

- 議題1. イギリス・キングストン大学との学術交流協定の締結について  
2. 中国・内モンゴ師範大学との学術交流協定の更新について

#### 第2回 5月9日(木)

- 議題1. 国際交流ポリシーに係るアクションプログラム検討WGについて  
2. 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムについて  
3. 日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費給付制度受給者選考について  
報告1. 派遣留学生の選考結果について  
2. 民間団体等からの奨学金受給者の選考について  
3. 泰日工業大学短期研修生の受入れについて  
4. 学術交流協定校からのサマースクールについて  
5. 平成25年4月留学生受入状況について  
6. 第2期中期目標期間における平成25年度計画について  
7. 留学生オリエンテーションについて

#### 第3回 6月13日(木)

- 議題1. アメリカ・ウエスタンワシントン大学との学術交流協定の更新について  
2. マラ教育財団とのJADプログラム MJHEPに係る覚書の締結について  
3. 室蘭工業大学教育研究重点経費(国際連携分)受給者の選考について  
報告1. 国際交流センターHPリニューアルについて  
2. ブラジル政府派遣留学生の受入可能数調査について

#### 第4回 7月31日(水)

- 議題1. 研究生(外国人留学生)の選考について  
2. 特別研究学生(外国人留学生)の指導教員変更について  
報告1. 学生の海外研修派遣状況について  
2. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞について  
3. 日本学生支援機構留学生交流支援制度(短期受入れ)奨学金受給者について

#### 第5回 8月23日(金)(持ち回り)

- 議題1. 特別研究学生(外国人留学生)の受入れについて  
2. 特別研究学生(外国人留学生)の研究期間延長について  
3. 特別聴講学生(外国人留学生)の受入れについて  
4. 日本学生支援機構留学生交流支援制度奨学金及び室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金受給者の選考について

#### 第6回 9月30日(月)

- 議題1. ポーランド・AGH科学技術大学との学生交流に関する覚書の締結について  
2. 大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ内諾について  
3. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

報告1. RMIT語学研修について

2. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について

### 第7回 11月26日(火)(持ち回り)

議題1. 研究生(外国人留学生)の選考について

### 第8回 12月16日(月)

議題1. フィンランド・ラップランド大学とそのアークティックセンターとの協定の締結について

2. 平成26年度国内採用による国費外国人留学生(研究留学生)被推薦者の選考について

報告1. 平成25年10月留学生受入状況について

2. 日本学生支援機構海外留学支援制度申請について

3. 日本学術振興会各種事業の公募について

4. RMIT語学研修派遣およびRMIT日本語研修受入れについて

5. 海外研修の募集について

6. 学術交流のためのブラジル大学・研究機関訪問・調査について

7. ドイツ・オーストリア交流協定校訪問について

8. イギリス・キングストン大学との学術交流協定調印と協議・視察について

9. 国際交流関連行事について

10. その他(教育システム委員会との意見交換会の開催について)

### 第9回 2月4日(火)

議題1. 研究生(外国人留学生)の選考について

2. 特別研究生(外国人留学生)の受入れについて

3. 特別聴講学生(外国人留学生)の受入れについて

4. 日本学生支援機構留学生交流支援制度奨学金及び室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金受給者の選考について

5. 大学推薦による国費外国人留学生(研究留学生)の選考について

6. マレーシア政府派遣学部留学生の受入れについて

7. 中国・北京科技大学との学術交流協定の更新について

8. ロシア・ニコラエフ無機化学研究所及び産業技術総合研究所との覚書の延長について

報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について

2. 室蘭工業大学佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞者選考結果について

3. 平成25年度中期計画進捗状況等について

4. 平成25年度留学生交流会について

### 第10回 2月21日(金)(持ち回り)

議題1. 室蘭工業大学重点研究経費(国際連携分)受給者の選考について

2. マレーシア政府派遣留学生の受入れ(追加)について

### 国際交流委員会設置WG:平成25年度 国際交流ポリシー優先アクションプログラム検討WG

(WG調整会議) 平成25年 7月 5日(金)

第1回 WG会議 平成25年 9月27日(金)

第2回 WG会議 平成25年10月21日(月)

第3回 WG会議 平成25年11月14日(木)

第4回 WG会議 平成25年12月20日(金)

第5回 WG会議 平成26年 1月27日(月)

第6回 WG会議 平成26年 3月 3日(月)

## 5.2 国際交流センター教職員打合せ会議

原則として、毎週月曜日に、センター教職員と連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

## 5.3 北海道・中国交流推進連携会議

開催日:4月23日(火), 場所:北海道庁別館9階 第3研修室

出席:武井

主催:北海道・中国交流推進連携会議

- 議題:1. 平成25年度における中国との交流事業について  
2. 北海道と中国における環境ビジネス交流事業について  
3. 中国江蘇省・蘇州外国語学校からの交流希望の受付について

## 5.4 室蘭市国際交流推進協議会

室蘭市では、国際化時代に対応した地域づくりを進めるため、全市的視点から国際交流を推進することを目的とする、室蘭市国際交流推進協議会を組織している。本学は会員として参加するとともに、会長職に佐藤一彦学長が、幹事職に加賀屋誠一国際交流センター長が就任している。

開催日:5月24日(金), 場所:室蘭市中島会館

出席:門澤

主催:室蘭市国際交流推進協議会

参加団体:室蘭工業大学, 室蘭国際交流センター, 一般財団法人 室蘭市体育協会, 室蘭商工会議所, 室蘭文化連盟, 登別室蘭青年会議所, 室蘭地区高等学校校長会, 胆振国際理解教育研究会, 室蘭ロータリークラブ, 室蘭ライオンズクラブ, 室蘭市女性団体連絡協議会, 国際ソロプチミスト室蘭, 一般財団法人 室蘭ルネッサンス, ノックスビルの会, 日照市と友好の会, その他会員団体多数

- 議題:1. 平成24年度事業報告について  
2. 平成24年度収支決算報告について  
3. 平成24年度監査報告について  
4. 平成25年度事業計画(案)について  
5. 平成25年度収支予算(案)について  
6. 役員改選について

## 5.5 マレーシア日本高等教育プログラム(MJHEP)大学説明会他

開催日:6月16日(日)~18日(火)

場所:パレス オブ ザ ゴールデンホース ホテル(マレーシア・クアラルンプール)

出席:藤木(もの創造系領域), 宮下

主催:YPM(マラ教育財団)

- 内容:1. 大学説明会  
2. MJHEP 合同運営委員会

その他

MJHEP 授業見学会(場所:MJII=MARA Japan Industrial Institute)  
進学説明会(場所:帝京マレーシア日本語学院)

## 5.6 室蘭工業大学大学院・学部進学説明会

開催日:7月11日(木), 場所:千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校

出席:武井, 内藤

開催日:7月12日(金), 場所:フジ国際語学院新宿校

出席:武井, 内藤

開催日:7月12日(金), 場所:アジア学生文化会館

出席:武井, 内藤

開催日:7月19日(金), 場所:岡山ビジネスカレッジ

出席:山路, 宮下, 武川

## 5.7 外国人学生のための進学説明会

開催日:7月14日(日), 場所:サンシャインシティ文化会館展示ホールD

出席:門澤, 武井, 内藤

主催:独立行政法人日本学生支援機構

開催日:7月21日(日), 場所:グランキューブ大阪イベントホール

出席:山路, 宮下, 武川

主催:独立行政法人日本学生支援機構

## 5.8 平成25年度国立大学法人留学生センター長及び留学生担当課長等合同会議

開催日:11月5日(火), 場所:ホテルグリーンパーク津

出席:加賀屋, 武井

主催:三重大学(当番校)

- ・文部科学省所管事項説明
- ・独立行政法人日本学生支援機構事業説明
- ・公益財団法人日本国際教育支援協会事業説明
- ・基調講演  
「我が国の国費外国人留学生制度の現状と課題 ― 世界の高度人材獲得競争の中で ―」  
(平安女学院大学副学長 谷口 吉弘)
- ・協議事項:よりよい留学生支援体制について

## 5.9 北海道留学生交流推進協議会総会

開催日:1月23日(木), 場所:ASTY45

出席:武井

主催:北海道留学生交流推進協議会

講演「留学生支援事業について」(文部科学省高等教育局 学生・留学生課長 渡辺 正実)

報告1. 各団体からの報告・事例紹介

- (1) 札幌商工会議所 国際部 国際課 プロジェクトマネージャー 松浦 武志
- (2) 公益財団法人札幌国際プラザ 多文化交流部 多文化推進課 杉本 彩
- (3) 北海道大学 国際本部 国際支援課長 小形 徳応

2. 北海道内における留学生受入等の現状について

北海道大学 国際本部 国際支援課 特定専門職員 福田 春恵

## 5.10 平成25年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

開催日:1月30日(木)～31日(金), 場所:神戸ポートピアホテル, 神戸大学統合研究拠点

出席:加賀屋, 武井

主催:神戸大学(当番校)

テーマ:グローバル化推進のための取り組み ～ 大学と産業界等の連携強化 ～

### 【1日目】

基調講演

「総合商社における人材育成について」

橋本 雅至(丸紅株式・大阪支社執行役員支社長)

文部科学省・法務省からの施策説明

「教育分野における国際戦略について」

今里 譲(文部科学省大臣官房国際課長)

「グローバル人材育成と大学の国際化関係施策について」

有賀 理(文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長)

「科学技術力の強化と大学の国際化」

長野 裕子(文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官(国際担当))

「高度人材ポイント制による出入国管理上の優遇制度について」

竹内 悠介(法務省・入国管理局総務課企画室法務専門官)



## 【2日目】

### 講演

「兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク(HUMAP)について」

後藤 綾一((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構学術交流センター事業課長)

「グローバル人材活用運営協議会の設立と取り組み」

久保 俊裕(関西経済連合会グローバル人材育成・活用委員会 副委員長 株式会社クボタ  
取締役 専務執行役員)

統合研究拠点(シミュレーション 3次元可視化デモンストレーション)

説明:賀谷 信幸(神戸大学 学長補佐・国際交流推進機構副機構長)

### 5.11 平成 25 年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会

本学の留学生は、市内外の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けており、これら諸団体に対し本学の留学生に対する取り組み状況等を説明し、意見交換を通して理解を得ると共に、今後の留学生受入れ及び学生生活に係るなお一層の支援を仰ぎ、留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的に懇談会を開催した。

開催日:2月21日(金)、 場所:蓬峯殿

主催:室蘭工業大学

出席団体:室蘭国際交流センター、北海道胆振総合振興局、胆振国際理解教育研究会、室蘭ロータリークラブ、登別ロータリークラブ、室蘭東ロータリークラブ、室蘭北ロータリークラブ、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、北海道 内モンゴル友好協会、国際ソロプチミスト室蘭、室蘭ユネスコ協会、室蘭市女性団体連絡協議会、NPO法人 羅針盤、室蘭市民観光ボランティアガイド協議会、ノックスビルの会、北海道新聞室蘭支社、室蘭民報社

大学からの説明

- ・国の留学生政策の現状と展望について
- ・室蘭工業大学の留学生受入れ状況及び交流状況について

意見交換

- ・留学生と地域の交流等について

## 6. 国際学術交流

### 6.1 国際学術交流協定

本学は、教育研究活動の国際化を進めるために、海外の大学、研究機関と学術交流協定を締結し、交流の促進に努めている。2013年度末時点で36大学・機関と協定を締結し、研究交流ならびに学生交流を推進している。

国別では中国8大学、韓国6大学・機関、タイ3大学、ロシア3大学・機関、ドイツ4大学、フィンランド2大学、アメリカ、イギリス、オーストラリア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ウクライナ、台湾、ベトナム、インドネシアが各1大学である。

2013年度は、中国の曲阜師範大学、イギリスのキングストン大学、フィンランドのラップランド大学と同大アーケティックセンターとの交流協定を締結した。また、内モンゴ師範大学、北京科技大学、ウェスタンワシントン大学、AGH科学技術大学との交流協定、そしてニコラエフ無機化学研究所ならびに独立行政法人産業技術総合研究所との三者協定の更新が行われた。

#### 【大学間学術交流協定】

以下のとおり、2013年度末において国際学術交流協定は33大学・3機関である。

(注)担当教員名は上段より連絡窓口1, 2, 3の順に記載

	締結大学名	国名	締結年月日	担当教員名
1	河南理工大学	中国	1988年11月11日	教授 板倉賢一
2	大連交通大学	中国	1996年10月1日	教授 齋藤 務 教授 平井伸治
3	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999年3月26日	准教授 門澤健也 准教授 山路奈保子
4	ウェスタンワシントン大学	アメリカ	2000年10月27日	准教授 ジョンソン マイケル 准教授 ゲイナー ブライアン 准教授 山路奈保子
5	アアルト大学電気工学部	フィンランド	2001年3月15日	教授 鈴木幸司 教授 濱 幸雄
6	北京科技大学	中国	2004年2月2日	教授 濱 幸雄 教授 板倉賢一 助教 倉重健太郎
7	ロストック大学情報電気工学部	ドイツ	2004年2月20日	准教授 川口秀樹 准教授 クラウゼ小野 マルギット
8	忠南大学校	韓国	2004年4月20日	教授 濱 幸雄 教授 鈴木幸司
9	安東大学校	韓国	2004年6月8日	教授 藤木裕行
10	釜慶大学校工科大学	韓国	2004年9月1日	教授 中野博人 講師 長船康裕
11	チェンマイ大学	タイ	2005年4月19日	教授 風間俊治 助教 関 千草
12	キングモンクット工科大学ラカバン	タイ	2005年4月20日	教授 相津佳永 教授 大坂谷吉行 准教授 吉田英樹
13	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005年5月30日	教授 平井伸治

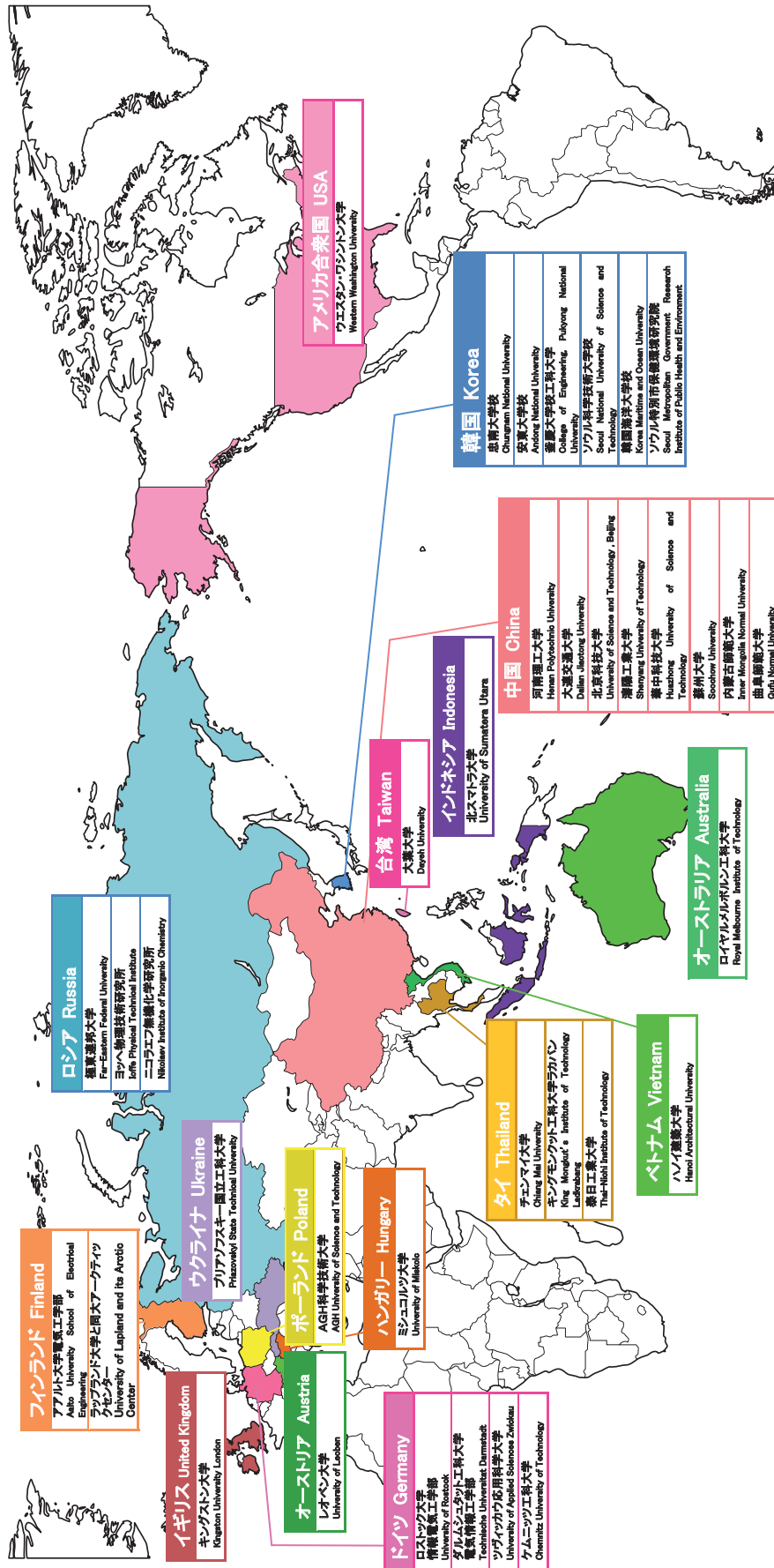
14	レオベン大学	オーストリア	2006年10月10日	教授 佐藤孝紀 准教授 武田圭生 講師 松本大樹
15	ミシュコルツ大学	ハンガリー	2006年11月13日	教授 佐藤孝紀 准教授 武田圭生 講師 松本大樹
16	極東連邦大学	ロシア	2007年2月19日	教授 板倉賢一 教授 後藤龍彦
17	ハノイ建築大学	ベトナム	2007年3月27日	教授 木幡行宏 講師 山田 深
18	ソウル科学技術大学校	韓国	2007年7月25日	教授 張 裕喆 准教授 岸本弘立
19	ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部	ドイツ	2007年11月9日	准教授 川口秀樹 准教授 渡辺浩太
20	瀋陽工業大学	中国	2007年11月9日	講師 真境名達哉 准教授 花島直彦
21	華中科技大学	中国	2007年11月12日	教授 清水一道
22	蘇州大学	中国	2007年11月26日	教授 竹ヶ原裕元 准教授 渡邊真也
23	内蒙古師範大学	中国	2008年6月2日	教授 岩佐達郎 准教授 加野 裕
24	韓国海洋大学校	韓国	2009年1月19日	教授 木村克俊
25	AGH科学技術大学	ポーランド	2009年8月27日	准教授 魚住 超 教授 板倉賢一 准教授 須藤秀紹
26	泰日工業大学	タイ	2010年4月1日	教授 塩谷浩之 教授 藤木裕行
27	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010年11月16日	教授 清水一道 准教授 吉田英樹
28	大葉大学	台湾	2010年12月1日	准教授 山路奈保子 准教授 門澤健也
29	ヨッヘ物理技術研究所	ロシア	2011年7月12日	教授 平井伸治 教授 関根ちひろ 助教 葛谷俊博
30	ツヴィッカウ応用科学大学	ドイツ	2012年6月8日	准教授 クラウゼ小野 マルギット 教授 相津佳永
31	ケムニッツ工科大学	ドイツ	2012年9月20日	准教授 クラウゼ小野 マルギット 准教授 須藤秀紹 教授 佐賀聡人
32	ソウル特別市保健環境研究院	韓国	2012年9月20日	教授 張 裕喆 教授 岩佐達郎 助教 関 千草
33	北スマトラ大学	インドネシア	2013年2月15日	教授 河合秀樹 教授 大平勇一
34	曲阜師範大学	中国	2013年4月1日	教授 齋藤 務 講師 佐藤和彦
35	キングストン大学	イギリス	2013年10月23日	准教授 須藤秀紹 教授 板倉賢一 教授 齋藤 務

36	ラップランド大学と同大アーク ティックセンター	フィンランド	2014年3月3日	准教授 清末愛砂 教授 丸山 博 准教授 永井真也
----	----------------------------	--------	-----------	---------------------------------

【三者間学術交流協定】

締結大学名	国名	締結年月日	担当教員名
ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2008年11月18日	教授 平井伸治
独立行政法人産業技術総合研究所	日本		

図1 本学の学術交流協定校・機関





## 7. 外国人留学生

### 7.1 留学生数

本学は、1979年から外国人留学生を受入れており、留学生数は2003年の60名をピークに、2006年には45名まで減少したが、国際交流センター設置後は、留学生数も大幅に増加し、2009年は初めて100人に到達し、2014年は123名を受入れるに至った。

これまでの留学生受入れの推移を表1に、留学生数(学科別・学年別)を表2に、また、留学生数(国籍別・身分別)を表3に示す。

なお、本活動報告書は2013年度版であるが、10月入学者がいることから、調査・統計の関係上、2013年5月1日ではなく、2014年5月1日の数字を計上した。

### 7.2 留学生数の推移に関する考察と展望

表1に見るように、1979年から1986年までは政府派遣留学生が大半を占めており、これは国交を回復した直後の中国からの留学生がほとんどだった。

1988年からは、当時の中曽根首相のいわゆる「留学生10万人計画」を受けて、国費留学生の数が増加していく。また同年から、マレーシア政府派遣留学生の受入れも始まり、留学生数は徐々に増加していった。さらに1993年から2003年ごろまでは国費留学生が安定的に配分され、2003年には本学の留学生受入れが始まってから最大の60人に達した。

2007年に国際交流センターが設置されてからは、留学生獲得のため国内・国外での広報活動に努力し、さらに国費や外国政府派遣のみに頼らない本学独自の私費留学生に対する奨学金制度を創設するなどの措置をとったため、2008年からは増加に転じ、2009年には、2006年に一旦底を打った45人の2倍超である100人に到達した。

このことには上記以外に、次の3つの理由も大きいと思われる。

- ① 学術交流協定校からの短期留学生が増加したこと。
- ② 上記の短期留学生も含めて、在学する留学生に対する国際交流センターや本学全体の支援が、留学生に好感を持って理解され、それがそれぞれの国の留学志願者や国内の高専からの編入学希望者に伝わって、本学を志望する学生が増えたこと。
- ③ 短期留学生が本学で半年から1年学ぶ間に、本学や室蘭を気に入る、信頼できる指導教員も見つけて、その後修士課程や博士課程に再度留学してくるケースが出てきたこと。

今後の展望としては、いわゆる「留学生30万人計画」もあり、本学としても現在の100人超から、150人、さらには200人以上を目標として留学生の増加を図っていくことが求められる。

しかしながら、前述したように2006年の留学生数45人から、国際交流センター設置後に2年をかけて100人まで増やしたときには、宿舍の確保が最重要かつ緊急の課題となり、次のような措置でこれに対応した経緯がある。

- ① 民間アパートを大学が借り上げて、既設の留学生宿舍と同じ家賃で留学生を居住させた。
- ② 職員宿舍の一部を留学生用に転用した。
- ③ 室蘭市営アパートの一部を、本学が入退去を管理する留学生専用宿舍として確保した。
- ④ 明德寮に留学生用の部屋を確保した。

留学生数の拡大には、奨学金及び宿舍の確保が最大の課題である。

表1 留学生数(年度別)集計(各年5月1日現在)

	工学部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小計			合計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100
2013	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74	108
2014	1	26	34	2	0	20	4	0	24	0	0	12	7	26	90	123

グラフ1 留学生数(年度別)集計(各年5月1日現在)

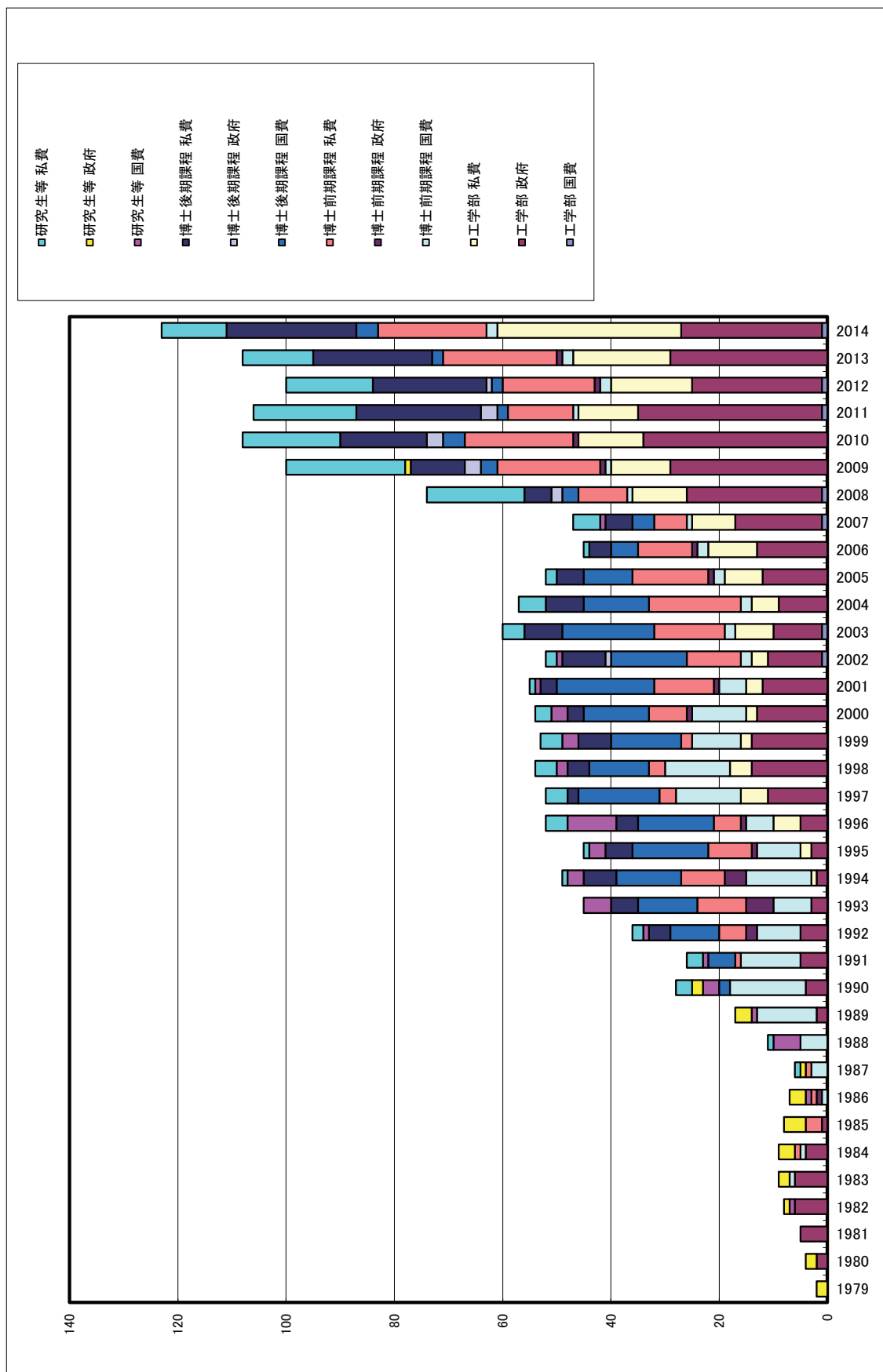


表2 留学生数(学科・学年別)集計(2014年5月1日現在)

【学部】

学 科 名	1 年	2 年	3 年	4 年	合 計
建築社会基盤系学科	2	1	1	4	8
機械航空創造系学科	3	4	10	11	28
応用理化学系学科	5	2	0	1	8
情報電子工学系学科	4	3	4	6	17
合 計	14	10	15	22	61

【博士前期課程】

専 攻 名	1年	2年	合 計
建築社会基盤系専攻	0	0	0
公共システム工学専攻	0	0	0
機械創造工学系専攻	0	6	6
航空宇宙システム工学専攻	0	0	0
応用理化学系専攻	0	0	0
情報電子工学系専攻	0	4	4
数理システム工学専攻	0	0	0
環境創生工学系専攻	4	0	4
生産システム工学系専攻	5	0	5
情報電子工学系専攻	3	0	3
合 計	12	10	22

【博士後期課程】

専攻名	1年	2年	3年	合計
建設工学専攻	0	0	2	2
生産情報システム工学専攻	0	0	0	0
物質工学専攻	0	0	1	1
創成機能科学専攻	0	0	0	0
建設環境工学専攻	0	1	0	1
生産情報システム工学専攻	2	1	8	11
航空宇宙システム工学専攻	0	0	0	0
物質工学専攻	1	0	3	4
創成機能工学専攻	2	1	1	4
工学専攻	5	0	0	5
合 計	10	3	15	28

【その他】

研究生	1
科目等履修生	0
特別研究学生	9
特別聴講学生	2
合 計	12

表3 留学生数(国・身分別)集計(2014年5月1日現在)

国名	学部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			合計		
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費
中国	0	0	21	1	0	12	3	0	18	0	0	7	4	0	58
マレーシア	0	26	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	9
韓国	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	1	0	0	6
ラオス	1	0	3	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	5
タイ	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	4
ネパール	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
ベトナム	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1
ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
インドネシア	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ウズベキスタン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	1	26	34	2	0	20	4	0	24	0	0	12	7	26	90

注1 学部私費留学生にはマレーシア・ツイニング・プログラム(JADプログラム)3名を含む。



### 7.3 奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表 4 のとおりであり、私費留学生の 69%が奨学金を受給している。

表 4 各種奨学金の受給(身分別)状況(2013年10月1日現在)

奨学金名	学部 (19)	博士前期課程 (21)	博士後期課程 (20)	研究生 (2)	特別研究学生 (11)	特別聴講学生 (4)	科目等履修生	合計 (77)
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金 (月額 30,000 円)	6	11	9					26
日本学生支援機構留学生交流支援制度(短期受入れ)奨学金 (月額 80,000 円)					9			9
日本学生支援機構私費外国人留学生学習奨励費 (大学院:月額 65,000 円, 学部:月額 48,000 円)	3	4	3					10
日本国際教育支援協会一般奨学金 (月額 30,000 円)		2						2
北海道外国人留学生国際交流支援事業助成金 (月額 20,000 円)		2						2
財団法人ロータリー米山記念奨学会奨学金 (月額 140,000 円)		1						1
共立国際交流奨学財団外国人留学生奨学金 (月額 100,000 円)		1						1
ドコモ留学生奨学金 (月額 120,000 円)		1						1
財団法人日揮・実吉奨学会奨学金 (年額 250,000 円)		2						2
財団法人平和中島財団奨学金 (月額 120,000 円)		1						1
マレーシア JAD プログラム (月額 132,250 円)	1							1
本庄国際奨学財団外国人留学生奨学金(月額 200,000 円)			1					1
合計	10	25	13	0	9	0	0	57

注 1 実受給者数は、54 名である。

注 2 上段( )は、私費外国人留学生数である。

注 3 室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金の受給者数は、9 名(支給期間 平成 25 年 4 月から 9 月、月額 50,000 円)であった。

## 7.4 宿舎

### 研究員宿舎

国際交流会館(研究員宿舎) : シングル:6室, ツイン:1室

### 留学生宿舎

- (1) 国際交流会館(留学生宿舎1) : 個室, 12室 (入居期間1年)
- (2) 留学生アパート(留学生宿舎2) : 2名入居, 12室 (入居期間1年)
- (3) 明德寮 : 3名入居, 16室

この他に室蘭市から, 市営アパート25室を留学生用の宿舎として借り受けている。

#### 7.4.1 国際交流会館

2012年度に職員会館と旧留学生宿舎を改修し, 2012年11月に外国人研究員宿泊施設と留学生宿舎を併設した国際交流会館を竣工し, 運用を開始した。

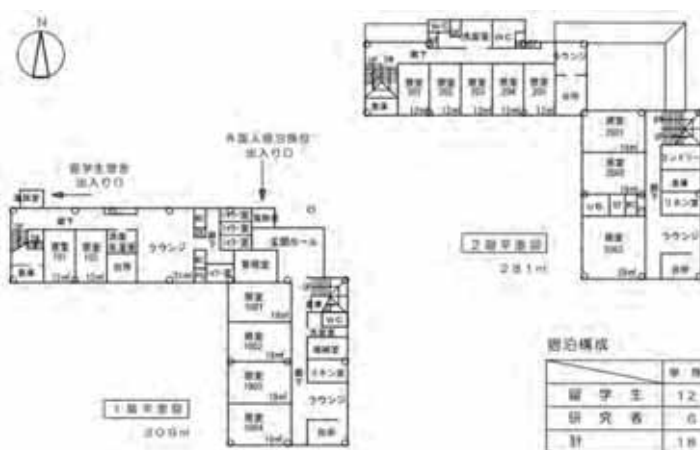


3階平面図

134㎡



オープニングセレモニー



宿泊構成

	寮室	床	計
留学生	12	0	12
研究者	6	1	7
計	18	1	19

国際交流会館(研究員宿舎)



玄関ロビー



キッチン(共同)



個室

国際交流会館(留学生宿舎 1)



ラウンジ



キッチン(共同)

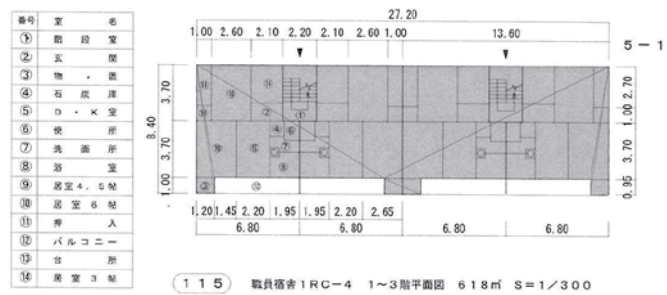


個室

7.4.2 留学生アパート(留学生宿舎 2)



外観



個室

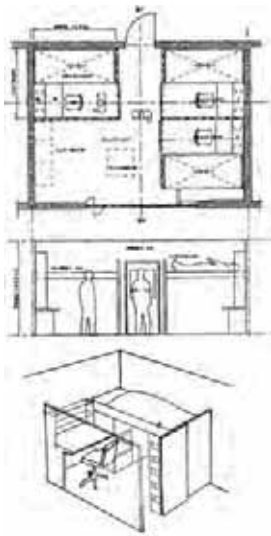
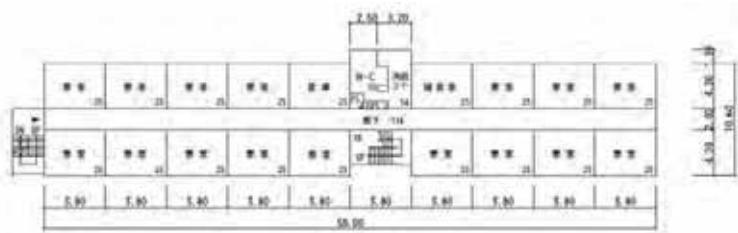


台所

### 7.4.3 明德寮 A棟 4階



外観



個室ブース



補食室(各階共同)



浴室(共同)



洗濯室(共同)

### 7.4.4 市営アパート(水元団地)



外観



和室



台所

## 8. 国際交流センター教員が担当した講義

### 8.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が 2013 年度に担当した講義は以下のとおりである。

2013 年度前期 日本語補講 日本語初級 I 日本語初級 II  学部・大学院 日本語科目 日本語 A1 (初級～中級) 日本語 B1 (中級) 日本語 C1 (中級～上級) 日本語 D1 (上級)  学部・大学院 共通科目 海外語学研修, 海外研修 <sup>注1</sup>	2013 年度後期 日本語補講 日本語初級 I 日本語初級 II  学部・大学院 日本語科目 日本語 A2 (初級～中級) 日本語 B2 (中級) 日本語 C2 (中級～上級) 日本語 D2 (上級)  学部・大学院 共通科目 異文化交流 B <sup>注2</sup>
--	---

注1 海外語学研修, 海外研修については第 11 章に述べる

注2 異文化交流 A(前期開講)は全学共通教育センター クラウゼ小野教員が担当

### 8.2 日本語補講

国際交流センターでは、日本語学習経験が少ない、または全くない学生を対象に初級レベルの日本語補講(単位とにならない)を開講している。主に本国で大学卒業後来日し博士前期課程への進学をめざす研究生、および本学協定校からの交換留学生が受講する。2013 年度に実施した補講は以下のとおり。

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| (1) 日本語初級 I (前期)  |                       |
| 担当: 山路奈保子         | 時間数: 4.5 時間 (3 回) / 週 |
| 受講者数: 8 名         | 使用教材: 『日本語初級 I 大地』    |
| (2) 日本語初級 I (後期)  |                       |
| 担当: 山路奈保子         | 時間数: 4.5 時間 (3 回) / 週 |
| 受講者数: 12 名        | 使用教材: 『日本語初級 I 大地』    |
| (3) 日本語初級 II (前期) |                       |
| 担当: 高久裕子 (非常勤講師)  | 時間数: 3 時間 (2 回) / 週   |
| 受講者数: 7 名         | 使用教材: 『日本語初級 II 大地』   |
| (4) 日本語初級 II (後期) |                       |
| 担当: 高久裕子 (非常勤講師)  | 時間数: 3 時間 (2 回) / 週   |
| 受講者数: 7 名         | 使用教材: 『日本語初級 II 大地』   |



### 8.3 学部・大学院 日本語科目

正規の日本語科目は、前期・後期それぞれA～Dまでの4科目が開講された。これらの科目はレベル別対応であると同時に、口頭コミュニケーション(A1・A2)、科学技術分野における語彙・表現(B1)、プレゼンテーション(B2)、文章表現(C1・C2)と、必要とするスキルに応じて講義を選択できるようになっている。また日本語能力試験対策講座(D1・D2)も開講している。学生は複数の科目を並行して受講することができる。

#### (1) 日本語 A1(前期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:初級～初中級

受講者数:13名

使用教材:『研究留学生の日本語会話』(前半)

授業内容:理工系分野における専門基礎語彙を導入するとともに、ゼミでの質疑応答や学会発表についての相談など、留学生が研究生活で出会う場面でのモデル会話を通じて、実際のコミュニケーション場面において既習の文型・表現がどのように現れるかを提示し、既習表現の運用力の向上を図った。

#### (2) 日本語 A2(後期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:初中級

受講者数:12名

使用教材:『研究留学生の日本語会話』(後半)

授業内容:より発展的な文型・表現とともに、学内外の人々との社会・文化的テーマでの会話における理解力や表現力を高めるための語彙・表現や文化的知識を導入し、さまざまな場面で円滑に会話を展開できるコミュニケーション技能の向上を図った。

#### (3) 日本語 B1(前期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:中級

受講者数:16名

授業内容:科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事等を材料に、大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに、抽象的な事柄を説明する文章を組み立てられるようになることをめざす総合的な訓練を行った。

#### (4) 日本語 B2(後期)

担当:山路奈保子

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:中級

受講者数:8名

授業内容:日本語によるスピーチ・プレゼンテーションの技能向上をめざし、本を紹介するスピーチを競う「ビブリオバトル」や、学生自身の専門分野を紹介するプレゼンテーション等の活動を通じて、聞きやすい話しかたとわかりやすい構成のしかたの指導を行った。

#### (5) 日本語 C1(前期)

担当:二通信子(非常勤講師)

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:中級～上級

受講者数:14名

授業内容:文章作成に必要な日本語の知識を導入するとともに、日本語による文章作成の基礎的な訓練を行った。コースの前半では読み手の立場に立った分かりやすい文章の書きかた、後



半では論理的な文章の構造や表現を扱い、アカデミックな文章を書くための基礎的技術の育成を図った。

(6) 日本語 C2(後期)

担当:二通信子(非常勤講師) 時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:中級～上級 受講者数:6 名

授業内容:さまざまな作文課題やクラスでのディスカッションを通して、日本語のアカデミック・ライティング能力および論理的思考力の養成を行うとともに、論理的文章の作成に必要な様々な表現を目的に応じて使用できるようになるための訓練を行った。

(7) 日本語 D1(前期)

担当:門沢健也 時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級 受講者数:13 名

授業内容:日本語能力試験N1を受験しようという学生のために、問題集を使って受験対策の授業をおこなった。

(8) 日本語 D2(後期)

担当:門沢健也 時間数:1.5 時間(1 回)／週

レベル:上級 受講者数:25 名

授業内容:上記、日本語 D1(前期)の継続。受講者の中から日本語能力試験N1の合格者が数名出たのは喜ばしい結果であった。

## 8.4 学部・大学院共通科目

(1) 異文化交流B

担当:門沢健也

時間数:15 時間 受講者数:20 名

日本語教員の担当科目の中で「異文化交流B」は、カリキュラム上の位置付けは留学生だけのための日本語科目ではないが、留学生と日本人学生が共同して学ぶこと自体を目的とした、特色ある科目である。今年度は留学生 10 人と日本人学生 10 人ずつ、合計 20 人が受講し、受講者が興味のあるテーマを自分たちで自由に設定し、留学生と日本人学生を含む小グループで、そのテーマについて事前に調べ、授業で発表し、その後受講者全体で討論を行うという形式で行った。

受講者が選んだテーマをいくつか挙げると、「各国の宗教に対する考え方の違い」「約束した時間についての考え方」「各国の若者の恋愛観・結婚観・家族観」「各国の食文化」などであった。

(2) 新冠農業実習(社会体験実習)

国際交流センター自体の所轄ではないが、国際交流センターの専任教員が発案した本学の特色ある実習科目の一つに、「新冠農業実習」がある。

工学を志し、工学を学び、そして多くは工学を生涯のなりわいと為す、という工業大学の学生たちに、ちょっと視点を変えて農業を体験させるのはどうだろうか。それが新たな自己を発見したり新しい価値観や職業観をはぐくむ契機となり、人生を豊かにしたり生きるための力を与えてくれるのではないだろうか。—そんな発想から、2001(平成 13)年度から、日高管内新冠(にいかっふ)町の篤農家グループの協力を得て、同地域での農業実習を正規の科目として導入した。この新冠農業実習は、毎年 10～20 人の学生

を新冠町の水田・畑作・酪農・肉牛・軽種馬・養鶏などの農家に分けて 10 日間寄宿させ、家族の一員として生活をともにしながら、農作業や農家の生活を体験させようというもので、参加した学生には「社会体験実習」の 2 単位が与えられる。

参加した学生たちは、10 日間の実習で、日ごろ慣れないきつい労働を経験して、疲れや筋肉痛を訴えながらも、恒例の実習最後の閉講式では、「食糧生産の大切さとその現場の苦労を知った」「農家の人々の明るさとエネルギーから元気をもらった」「農業の中で工業技術がどのように求められているかを身をもって知ることができた」などの感想を力強く述べる。

2013 年度の第 12 回まででこの実習に参加した学生は 190 人以上に達し、2009 年からは国内の提携大学である東京都市大学の学生にも参加の門戸を開放し、また留学生の参加も増えるなど、学生たちにとって、異業種・異文化・異世代、そして国際交流のまたとない機会となっている。

この農業実習の特徴は、毎年度男子よりも女子の参加者の方が格段に多いことで、2013 年度は参加者 9 名のうち 5 名が女子であった。(本学全体の女子学生の割合は約 9%)

## 9. 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは、学生と市民の皆さんとともに、世界のさまざまな国や地域について勉強し合い、国際的な視野を拓けることを目的としている。

### (1) 第 42 回 室蘭工大国際セミナー／ようこそ先輩

開催日：2013年11月15日(金)

参加人数：約 120 名(市民, 学生, 教職員を含む)

テーマ：グローバル化と日本の未来

講演者：野田 順康

1977(昭和 52)年, 室蘭工業大学土木工学科卒業



学長によるあいさつ



質疑応答に応じる講演者

## 10. 留学生を対象とした行事，研修等

### 10.1 国際交流センター主催行事

#### (1) 留学生オリエンテーション及び新入学留学生歓迎交流会

開催日：2013年5月10日

参加人数：約130名(チューター，教職員を含む)

新たな留学生に対して国際交流センター関係教職員の紹介を行い，日本での生活上の注意事項を説明した。また，室蘭警察署の方をお招きし，交通安全について説明していただいた。その後，在籍中の留学生及びチューターを紹介し，進入留学生歓迎交流会を行った。



オリエンテーション



新入留学生歓迎交流会，各国の料理が並ぶ

#### (2) 外国人留学生等見学旅行

開催日：2013年8月19～21日

参加人数：63名(留学生家族，教職員を含む)

北海道内の自然や特有の産業施設等の見学を通じて，留学生が北海道の文化，歴史，産業等についての知識や理解を深めることを目的として，今年度は帯広・阿寒方面へ2泊3日の日程で実施した。

《日程》

8/19	工大～帯広(昼食：はげ天本店)～音更町 柳月スイートピアガーデン(工場見学)～よつ葉乳業十勝主管工場(工場見学)～ホテル(泊)(ホテルパコ帯広)
8/20	ホテル～道の駅 足寄湖～阿寒湖(遊覧船乗船，昼食：ホテル阿寒湖荘)～道の駅 あしよろ銀河ホール21～ホテル(夕食・泊)(ホテルパコ帯広)
8/21	ホテル～帯広畜産大学(施設見学)～国民宿舎 新嵐山荘(昼食)～日勝峠展望台～道の駅 樹海ロード日高～工大



柳月スイートピアガーデンを見学



よつ葉乳業十勝主管工場を見学



帯広畜産大学での講義

### (3) 室蘭岳登山

開催日:2013年10月5日

参加人数:23名(チューター, 教職員を含む)

室蘭岳(標高911メートル)登山を実施し, 10月に来日した新しい留学生を含む23名が参加した。



登山前, 白鳥ヒュッテの前で



室蘭岳山頂にて

### (4) 秋季見学旅行

開催日:2013年10月19日

参加人数:46名(留学生家族, 教職員を含む)

10月以降に入学した留学生に室蘭・登別市内, 洞爺湖町内の観光名所を案内し, 各市町に対する理解を深めさせるとともに, 留学生同士の交流を図る目的で実施した。

《日程》

10/19	工大～登別伊達時代村(見学, 昼食)～洞爺レイクヒルファーム～有珠山ロープウェイ～祝津公園展望台(室蘭夜景)～工大
-------	---



登別伊達時代村にて



洞爺レイクヒルファームにて

### (5) 10月新入学留学生歓迎ウェルカムランチ

開催日:2013年10月25日

参加人数:37名(国際交流クラブの学生, チューター, 教職員を含む)

10月に新しく来日した留学生, インターンシップ生が早く本学での生活に馴染めるよう, 国際交流クラブと共催し, 歓迎会を開催した。手巻き寿司を食べながら, 留学生同士, 日本人学生, 国際交流センター教職員との交流を図った。





新しい留学生を囲んで



10月に来日した留学生

## (6) 生活安全講習会

開催日:2013年12月11日

留学生参加人数:約10名(チューターを含む)

10月入学の留学生を対象に、交通事故、火災、地震及びインターネット犯罪などの事件・事故の防止のため、生活安全講習会を開催した。5月のオリエンテーションと同様、室蘭警察署の方をお招きし、室蘭工業大学で実際に起こった事故・事件について、また、日本で安全に生活するための対処方法などを説明した。



講習を受ける10月入学の留学生



室蘭警察署からの説明

## (7) 野外セミナー(スキー研修)

開催日:2014年1月9日

参加人数:73名(留学生家族を含む)

場所:サンライバスキー場

東南アジアなど暖かい国の出身者が多い留学生に、スキーという野外活動を通じ、北国の冬の楽しみ方を紹介した。



サンライバスキー場にて



## (8) 留学生交流会

開催日:2014年2月21日

参加人数:約220名(留学生家族を含む。)

場所:蓬峯殿

日頃留学生がお世話になっている市内等の国際交流推進関係諸団体及び市民等を招待し、交流会を通して留学生との親睦を図るとともに、卒業・修了する留学生を祝福することを目的として開催している。



卒業生代表による挨拶



留学生によるアトラクション披露



佐藤学長夫妻と修了留学生



学長夫妻, 理事, 卒業生・修了生を中心に

## 10.2 学外の諸行事への留学生派遣, 参加の状況

### 10.2.1 講師派遣

開催日	主催	行事名	留学生派遣人数
2013年5月23日	海星学院高等学校	国際交流会	6
2013年7月14日	北海道登別明日中等教育学校	文化祭 異文化交流	7
2013年10月28日	室蘭市立本輪西小学校	国際交流教室	1
2013年11月12日	室蘭市立本室蘭小学校	国際交流教室	1
2013年11月12日	室蘭ルネッサンス	留学生との懇話会	3
2013年11月18日	室蘭市立武揚小学校	国際交流教室	1
2013年11月29日	室蘭市立水元小学校	国際交流教室	1
2013年12月12日	室蘭市立八丁平小学校	国際交流教室	2
2013年12月12日	室蘭市立絵鞆小学校	国際交流教室	2
2013年12月21日	室蘭市立旭ヶ丘小学校	国際交流教室	1
2014年2月21日	室蘭市立桜が丘小学校	国際交流教室	1
2014年2月25日	室蘭北ロータリークラブ	国際交流フォーラム	3
合 計			29



室蘭市立絵鞆小学校 国際交流教室, (左)マレーシア人留学生, (右)中国人留学生が母国の文化等について発表

## 10.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
2013年4月14日	(社)茶道裏千家淡交会室蘭支部	春の茶会	9
2013年4月27日	室蘭国際交流センター	ウエルカム パーティー	18
2013年5月11日	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流フェスティバル	8
2013年6月29日	室蘭市	イルカ・鯨ウォッチング体験乗船	30
2013年7月6日	室蘭東ロータリークラブ	イタンキ浜清掃	10
2013年7月28日	(社)茶道裏千家淡交会室蘭支部	港まつり協賛茶会	2
2013年11月19日	室蘭国際交流センター	Exchange Muroran 「中国料理体験」	2
2013年12月19日	室蘭ロータリークラブ	夜間例会	5
2014年2月8日	室蘭市国際交流推進協議会	さっぽろ雪まつり見学会	40
2014年2月16日	室蘭国際交流センター	さよなら着物パーティー	16
合 計			140

### (1) 春の茶会

主 催:室蘭国際交流センター

開 催 日:2013年4月14日

参加人数:9名

茶道裏千家淡交会室蘭支部の主催により、日本の伝統文化である茶道を体験できる春の茶会が開催され、留学生9名が参加した。



初めての茶道体験

### (2) ウエルカム パーティー

主 催:室蘭国際交流センター

開 催 日:2013年4月27日

参加人数:18名

室蘭国際交流センターの主催により、新たに室蘭市民となった新入学留学生を対象とした交流会が開催された。日本伝統のお寿司調理体験やゲームなどを通じ、市民の皆様との交流を深めた。



手巻き寿司作りを体験した新入留学生

### (3) イルカ・鯨ウォッチング体験乗船

主 催:室蘭市

開 催 日:2013年6月29日

参加人数:30名

室蘭市の招待により、イルカ・鯨ウォッチング体験乗船に参加した。室蘭沖の海洋生物に関するレクチャーの後、船に乗り、海を泳ぐイルカの群れや、外海から見る工場・白鳥大橋の景色を楽しんだ。



海洋生物調査員・笹森さんのレクチャー



ウォッチング船バレーガに乗船



イルカの群れを観察

### (4) イタンキ浜清掃

主 催:室蘭東ロータリークラブ

開 催 日:2013年7月6日

参加人数:10名

室蘭東ロータリークラブが行っているイタンキ浜海水浴場の清掃活動に参加した。清掃終了後は、豊浦町でいちご狩りを体験した。



イタンキ浜の清掃



豊浦町でのいちご狩り



(5) さっぽろ雪まつり見学会

主 催:室蘭市国際交流推進協議会

開 催 日:2014年2月8日

参加人数:40名

室蘭市国際交流推進協議会の主催により、留学生とその家族を対象としたさっぽろ雪まつりへのバスツアーに参加した。雪まつり大通会場の他、北海道大学総合博物館を見学した。



北海道大学総合博物館を見学



大通公園の雪像の前で

(6) さよなら着物パーティー

主 催:室蘭国際交流センター

開 催 日:2014年2月16日

参加人数:16名

毎年、室蘭国際交流センター主催で開催される、卒業して室蘭を離れる留学生とその家族のためのパーティーに、今年は留学生16名が参加した。着物の着付けとファッションショー、記念撮影会が行われた後、市民の皆様の手作りの食事を囲んで交流を深めた。



着物を着て、ファッションショーなどを楽しんだ



市民の皆様の手作りの食事を囲んで

### 10.2.3 その他の行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
2013年7月14日	室蘭港鉄人舟漕ぎ大会 実行委員会	室蘭鉄人舟漕ぎ大会	24
2013年7月27日	室蘭市建設業協会事務局	室蘭ねりこみ	10
2013年9月1日	水元町内会	熊野神社例大祭はだか神輿	7
2013年9月29日	NPO 法人 羅針盤	ダイヤモンドプリンセス 歓迎ボランティア	8
2013年9月29日	菊池杯テニボン大会実行委員会	菊池杯テニボン大会	9
2013年11月23日	(社)北海道国際交流・協力総合 センター HIECC	防災セミナー	29
2014年1月～3月	室蘭社会福祉協議会	雪かきレンジャーボランティア	5
2014年1月9日 ～1月19日	NTT 室蘭支店/ 北海道内モンゴル友好協会	カレンダーリサイクル市	14
合 計			106



菊池杯テニボン大会にて



防災セミナーでの地震体験



室蘭ねりこみでの半被姿



## 11. 学術交流協定校との交流

### 11.1 協定校等への訪問

#### (1) ブラジル 大学・研究機関

訪問先:サンパウロ州工学研究所(IPT), サンパウロ大学  
パラナ連邦工科大学(UTFPR)

訪問日程:2013年9月10日~19日

訪問者:理事・国際交流センター長 加賀屋 誠一  
理事補・もの創造系領域教授 清水 一道

訪問内容:調査, 大学視察, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議

(IPT 訪問)



Boccalini 先生, Albertin 先生と



IPT 鑄造研究施設

(サンパウロ大学訪問)



海洋工学専門のニシモト先生(中央)と



機械工学科実習工場

(パラナ連邦工科大学訪問)



Cantarelli 総長と



本学卒業生で教員の Borsato 先生(左),  
国際担当の Souza 先生(中央右)と



在クリチバ日本国領事館主催夕食会

## (2) ドイツ, オーストリア3大学訪問

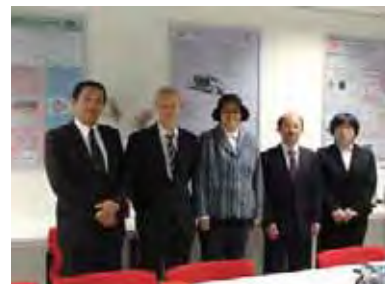
訪問先: (ドイツ)ケムニッツ工科大学, ツヴィッカウ応用科学大学  
(オーストリア)レオベン大学

訪問日程: 2013年10月5日~12日

訪問者: もの創造系領域教授 相津 佳永  
もの創造系領域教授 佐藤 孝紀  
国際交流センター事務室スタッフ 武川 梢

訪問内容: 進学説明会の開催  
交流内容の協議ならびに研究室訪問

(ケムニッツ工科大学)



計測・センサー研究室訪問

(ツヴィッカウ応用科学大学)



進学説明会, 約30名が参加

(レオベン大学)



学長表敬訪問 学長(中央), 本学の交換留学生を交えて

## (3) イギリス キングストン大学

訪問先: キングストン大学

訪問日程: 2013年10月23日, 24日

訪問者: 学長 佐藤 一彦  
もの創造系領域教授 齋藤 務  
もの創造系領域准教授 須藤 秀紹  
国際交流センター特定専門職員 内藤 直子

訪問内容: 大学概要の紹介, 協定締結調印式,  
交流内容の協議, 教育・研究施設の視察



学術交流協定の調印を終えた両大学関係者



情報学科長とのミーティング



航空学科視察, フライトシュミレーター等の設備が並ぶ

#### (4) ベトナム ハノイ建築大学

訪問先:ハノイ建築大学

訪問日程:2013年11月27日

訪問者:暮らし環境系領域教授 木幡 行宏

ひと文化系領域講師 ハグリー エリック トーマス

博士後期課程建築環境工学専攻2年 Duong Quang Hung

訪問内容:進学説明会の開催, 共同セミナー出席, 研究交流打ち合せ



進学説明会, 約70名が参加



説明会で発表するハグリー教員

#### (5) フィンランド ラップランド大学

訪問先:ラップランド大学と同大アークティックセンター

訪問日程:2014年3月2日~4日

訪問者:学長 佐藤 一彦

ひと文化系領域准教授 清末 愛砂

ひと文化系領域教授 丸山 博

ひと文化系領域教授 松名 隆

訪問内容:共同セミナー開催, 協定締結調印式, 大学視察



アークティックセンター外観



共同セミナーにて開会の挨拶を述べる佐藤学長



共同セミナー「文化の回復力と人権」



## (6) 中国 華中科技大学

訪問先: 華中科技大学材料科学工程学院

材料成形モジュール国家重点研究室, 他

訪問日程: 2014年3月12日, 13日

訪問者: もの創造系領域教授 清水 一道

国際交流センター准教授 山路 奈保子

国際交流センター事務室スタッフ 遠藤 仁郎

訪問内容: 研究室視察, 進学説明会, 清水教授による講演会, 交流内容の協議



華中科技大学正門



材料成形モジュール国家重点研究室



進学説明会, 学生約70名が参加



清水教授講演会, 学生約100名が参加



工程訓練センター見学



薫選普教授及び蔡啓舟教授と協議



華中科技大学の教職員との交流

## 11.2 外国，協定校等からの訪問受け入れ

### (1) タイ キングモンクット工科大学ラカバン校(KMITL)

訪問日程:2013年5月21日

訪問者:学長 Tawil Paungma

建築学部准教授 Jongkon Ngamwiwit

建築学部 国際遠隔教育担当准教授 Suphawadee Ratanamart

建築学部 建築計画議長助教 Yanin Rugwongwan

※第5回国際交流セミナーに参加したKMITL学生6名と共に来訪

訪問内容:表敬訪問, 研究室訪問, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議, セミナー出席



表敬訪問, 左よりスパワディ准教授, 学長



記念品交換, (右)パウンマ学長

### (2) アメリカ ウェスタンワシントン大学

訪問日程:2013年7月29日

訪問者:学長 Bruce Shepard

拡大教育部長 Earl F. Gibbons

環境学部長 Steve Hollenhorst

教育学部長 Francisco Rios

言語文化プログラム主任 Frederick O'Connor

アシスタントアドバイザー Alisa Sweet



(左)シェパード学長

訪問内容:表敬訪問, 協定締結調印式, 大学概要の説明ならびに交流内容の協議



学術交流協定の調印を終えた両大学関係者



環境科学・防災研究センター教員とのミーティング

### (3) ウクライナ プリアゾフスキー国立工科大学

訪問日程:2013年10月2日

訪問者:副学長 Alexandu Cheiliakh

訪問内容:表敬訪問, 交流内容の協議, 清水研究室における研究交流



学長表敬訪問, 左より2人目がチェリアッカ副学長



インターンシップ研修生と共に

### (4) 中国 北京科技大学

訪問日程:2014年3月7日

訪問者:学長 張欣欣

自動化工学院長教授 孫 长銀

情報工学院院长教授 隆 克平

土木環境工学副院長教授 紀 洪廣

鉄冶金学分野先進技術国家重点研究所所長・教授 郭 占成

研究開発室副部長教授 刘 杰民

国際課副所長准教授 郭 侃俊



(左)張学長

訪問内容:交流協定校の大学長による訪問, 協定の更新, 施設見学



学術交流協定の調印を終えた両大学関係者



研究室訪問



### 11.3 共同セミナー、共同事業等の実績について

#### (1) フィンランド 二国間交流事業セミナー

日 時:2013年6月26日～28日

開催地:室蘭工業大学

主 催:本学・しくみ情報系知能情報学ユニット教員, アアルト大学電気工学部

概 要:独立行政法人日本学術振興会とフィンランドアカデミーの支援を得て、「ソフトコンピューティングによる最適化技術とデータマイニングによる産業応用」のテーマで実施された。フィンランドから4名, 日本の大学から10名, 本学からは教員4名及び博士課程学生3名, 併せて21名の研究者による研究発表, 討論が行われた。



研究成果発表会



(左)ゼンガー教授と(右)鈴木教授

#### (2) タイ・チェンマイ大学との合同セミナー「MIER2013」

日 時:2013年11月14日～17日

開催地:チェンマイ大学

主 催:チェンマイ大学, 本学機械航空創造系学科/機械創造工学系専攻 機械システム工学  
コース及び国際交流センター

概 要:チェンマイ大学の教員, 学生ならびに本学の学生9名・教員6名が参加してシンポジウムを開催し, 一般講演61件, 特別講演4件を行った。



シンポジウムの様子

## 12. 学生の海外への派遣

### 12.1 短期留学

- (1) 学生氏名： 立桶 薫  
所 属： 機械航空創造系学科 4年  
派遣先： ツヴィッカウ応用科学大学(ドイツ)  
期 間： 1年間(2013年4月～2014年3月)  
経済支援： 50周年記念事業起業家意識養成等のための学生の海外研修  
支援奨学金(室蘭工業大学奨学金) 月額 5万円



ツヴィッカウ市内の様子



大学でのクリスマスパーティー

- (2) 学生氏名： 南保 悠也  
所 属： 情報電子工学系学科 3年  
派遣先： アアルト大学(フィンランド)  
期 間： 7か月(2013年2月～2013年8月)

- (3) 学生氏名: 長舟 和馬  
所 属: 情報電子工学系専攻 1年  
派遣先: アアルト大学(フィンランド)  
期 間: 6か月(2013年8月～2013年1月)  
経済支援: 50周年記念事業起業家意識養成等のための学生の海外研修  
支援奨学金(室蘭工業大学奨学金) 月額 5万円



大学でのパーティー



フィンランドの友人と

## 12.2 ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT) 語学研修

期間: 2013年8月25日～9月15日

内容: 海外学術交流協定提携校における英語研修, オーストラリア文化体験,  
学生交流

※平成25年度留学生交流支援制度(短期派遣)採択事業

参加者:10名(男子7名, 女子3名)

1. 福津 向基 建築社会基盤系学科 4年
2. 矢野慎太郎 建築社会基盤系学科 3年
3. 岡本 健作 機械航空創造系学科 3年
4. 鈴木 菜々 機械航空創造系学科 3年
5. 小野寺大地 機械航空創造系学科 2年
6. 藤田 悠人 機械航空創造系学科 2年
7. 木村 航平 機械航空創造系学科 1年
8. 奥田真之助 機械航空創造系学科 1年
9. 土橋 礼奈 応用理化学系学科 3年
10. 小野寺瑠依 応用理化学系学科 2年

引率: 山路 奈保子 ひと文化系領域准教授, 国際交流センター専任教員

武川 梢 国際交流センター スタッフ



修了式後に RMIT の学生と記念撮影



英語の授業を真剣に受講する学生

### 12.3 ヨーロッパ語学研修

期間： 2014年2月26日～3月17日

内容： 海外学術交流協定提携校ツヴィッカウ応用科学大学・ケムニッツ工科大学との学生交流  
及び下記の研修

①英語の語学研修 ②企業・博物館の見学 ③ヨーロッパの文化体験(訪問地:ドイツ,  
フランス, チェコ, ルクセンブルク)

参加者:11名(男子9名, 女子2名)

1. 伊藤 大志 建築社会基盤系学科 2年
2. 坂本 久宣 建築社会基盤系学科 2年
3. 小野寺 元 機械航空創造系学科 2年
4. 片倉 寛史 機械航空創造系学科 2年
5. 大崎 克宣 機械航空創造系学科 2年
6. 相澤 健哉 機械航空創造系学科 2年
7. 篠田 通尚 機械航空創造系学科 1年
8. 山上 佳那 機械創造工学系専攻 1年
9. 野坂 知未 情報電子工学系学科 2年
10. 永倉 利樹 応用理化学系学科 1年
11. 水野 黎 応用理化学系学科 1年

引率： クラウゼ小野 マルギット ひと文化系領域准教授

三浦 淳 ひと文化系領域准教授, 保健管理センター



ツヴィッカウ応用科学大学の学生と記念写真



授業後の記念撮影



## 12.4 台湾・大葉大学短期研修

期 間： 2014年3月2日～3月14日

内 容： 中国語研修, 大葉大学日本語学科の学生との交流, 日本語学習支援, 台中・台北および近郊の史跡見学

参加者:5名(男子3名 女子2名)

1. 小林 雪美 建築社会基盤系学科 1年
2. 木林 茉柚 建築社会基盤系学科 1年
3. 武田 開人 機械航空創造系学科 3年
4. 小林 雅典 情報電子工学系学科 1年
5. 市川 佑紀 情報電子工学系学科 1年



授業交流風景



大葉大学学生との記念撮影

## 12.5 ソウル科学技術大学校サマースクール

期 間： 2013年8月11日～8月22日

内 容： 初級韓国語の学習, 韓国の文化(韓国の現代音楽, 伝統行事, 伝統衣装)の学習ソウル科学技術大学の学生との交流, ソウル市内, 博物館等の見学

参加者:3名(男子2名, 女子1名)

1. 松浦 祐大 機械創造工学系専攻 1年
2. 工藤 大輝 情報電子工学系専攻 1年
3. 小田島美鶴 応用理化学系学科 3年

## 12.6 泰日工業大学サマースクール

期 間： 2013 年 8 月 22 日～9 月 2 日

内 容： タイ語の学習，タイの文化，泰日工業大学の学生との交流，日系企業訪問

参加者： 2 名(男子 2 名)

1. 石井 臣卓 機械航空創造系学科 1 年
2. 堀田 裕二 応用理化学系学科 1 年



泰日工業大学の記念写真



タイの子どもとの交流

## 12.7 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞

### 賞の由来と趣旨

本奨学賞は、医学博士で博士(工学)である佐藤矩康先生のご寄附によって、2009年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表、海外での研究プロジェクト参画、海外インターンシップなど、国際的な場で活動し、成果を上げることがを支援し、奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和2年、北海道富良野町に生まれ、北海道大学医学専門部を卒業後、医師、医学博士として医業に従事される傍ら、多年、刀剣考古学の研究に携わり、平成18年「X線CT法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士(工学)の学位(主査 桃野正教授)を授与されました。また長年、私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が、学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり、ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

### 故 佐藤矩康(さとう のりやす)博士 略歴

昭和2年4月 北海道上富良野町生まれ  
名寄小学校、名寄中学校を経て、  
昭和25年3月 北海道大学医学専門部卒業  
昭和25年4月 北海道立札幌医科大学内科学教室入局 医師  
以後 日高門別町 町立病院内科医長、南幌町 町立病院院長 等を歴任  
昭和34年10月 札幌市白石区にて、眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療  
平成12年4月 信佑会吉田記念病院医師、聖愛会発寒中央病院医師  
平成23年9月 逝去

本奨励金は、年2回募集し、8名程度に各10万円を授与する。

### 【2013年度前期受賞者】

- ・王強(物質工学専攻3年)
- ・矢野 稔顕(航空宇宙システム工学専攻1年)
- ・戸嶋 勇太(機械創造工学系専攻2年)
- ・高橋 利尚(応用理化学系専攻1年)



### 【2013年度後期受賞者】

- ・木村 慎治(情報電子工学系学科4年)



## 12.8 国際体験報告会・海外インターンシップ説明会

留学経験者と佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者の報告と海外インターンシップの面白さ、意義と効果を広くPRし、これを実施するIAESTE※(国際学生技術研修協会)の研修生募集試験への応募を勧誘する目的で、キャリアサポートセンターと共同で実施した。

※IAESTE(国際学生技術研修協会)

国際インターンシップを促進する非営利・非政府組織で、世界80カ国に支部(委員会)があり、4,000社を超える企業とのネットワークがある。

【平成25年度前期開催分】

開催日時:2013年6月5日

場 所:教育・研究3号館N棟 N104 講義室

参加学生数:約30名

講演者

① 留学経験者報告

舩澤 千尋(応用理化学系専攻2年)

2012年9月～2012年12月

IAESTE 国際インターンシップ(ドイツ)に参加

② 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者報告

KHAIRUNNISA BINTI MOHD PAAD(応用理化学系専攻2年)

HMEM2012での論文発表

2012年8月12～15日, アメリカ・ソルトレイクシティ

楠本 賢太(物質工学専攻2年)

ABRASION2011での論文発表

2011年8月21～24日, ベルギー・リエージュ



講演者の国際体験を熱心に聴く学生



奨学賞受賞者の報告

【平成 25 年度後期開催分】

開催日時:2013 年 12 月 17 日

場 所:教育・研究 3 号館N棟 C205 講義室

参加学生数:約 20 名



留学経験者の報告

講演者

① 留学経験者報告

佐々木 瞭(機械航空創造系学科 4 年)

2012 年 9 月～2013 年 8 月 オーストリア・レオベン大学への短期留学

水野 愛 (情報電子工学系学科 2 年)

2013 年 9 月 10～24 日 ドイツ・日独学生青年リーダー交流事業に参加

② 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞の受賞者報告

戸嶋 勇太(機械創造工学系専攻 2 年)

6<sup>th</sup> Kurt Schwabe Symposium での論文発表

2013 年 9 月 16 日～9 月 19 日 ポーランド・クラクフ

## 12.9 海外語学研修説明会

海外語学研修説明会は、各語学研修に参加した学生に体験を発表した後に、教員から語学研修の概要を説明し、幅広く語学研修のPRをする目的で実施している。

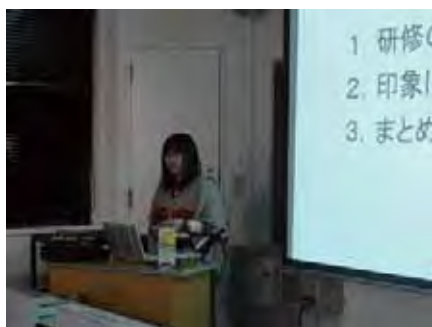
開催日時:2013 年 12 月 17 日(平成 25 年度後期国際体験報告会と同時開催)

場 所:教育・研究 3 号館N棟 C205 講義室

参加学生数:約 20 名

台湾・大葉大学短期研修

小野寺 瑠依(応用理化学系学科 2 年)



語学研修の体験談を語る発表者



語学研修担当教員からの説明の様子



## 13. 外国人短期研修生・外国人研究員・外国人インターンシップ研修生受入れ

### 13.1 外国人短期研修生受入れ

#### (1) 泰日工業大学短期研修生受入

期 間:2013年4月16日～5月24日

内 容:タイ・泰日工業大学の学部学生が本学で約5週間にわたり短期研修を行う。短期研修生は、いくつかの専門科目を受講し、機械航空創造系学科の研究室に配属され、授業以外の学生生活動を行う。

参加者:泰日工業大学研修生2名



学長表敬訪問



見学旅行でのニセコそりすべり体験

#### (2) RMIT日本語研修生受入

期 間:2013年11月2日～13日

内 容:本学の交流協定校であるオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学(以下RMITとする。)とのスタディーツアー及び学生交換に関する協定の合意事項実施のため、研修生を受入れる。研修は、本学での日本語による講義及び本学の学生との交流、北海道の自然や文化施設等の見学により、オーストラリアとは違った文化、歴史等についての知識・理解を深めることを目的とする。

参加者:RMIT研修生10名、RMIT引率者1名



白老・ポロコタンでの記念写真



ものづくり基盤センターでの鋳造体験

### 13.2 外国人インターンシップ研修生受入れ

インターンシップ研修生受入れ制度は、外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生が、本学において実施する研究、実験、解析、設計、製作等の研修プログラムに参加するものである。平成 25 年度は下記のとおり 14 名のインターンシップ研修生を受け入れた。

氏名	国	大学	受入期間	受入教員
Rakshith Shetty	インド	インド工科大学	2013.5.2-2013.7.15	平井 伸治
Kim Jun-Ho	韓国	清州大学校	2013.8.3-2013.8.10	濱 幸雄
Kang Byeong-Hoe	韓国	清州大学校	2013.8.3-2013.8.10	濱 幸雄
Stefan Baar	ドイツ	イエーナ大学	2013.6.10-2013.9.30	花島 直彦
Li Lei	中国	華中科技大学	2013.9.25-2013.10.25	山路奈保子
Zhang Ding	中国	華中科技大学	2013.9.25-2013.10.25	山路奈保子
Karavaieva Natalia	ウクライナ	ブリアゾフスキー工科大学	2013.10.1-2013.10.31	清水 一道
Kozarevska Tetiana	ウクライナ	ブリアゾフスキー工科大学	2013.10.1-2013.10.31	清水 一道
Zou Jiapeng	中国	華中科技大学	2013.7.1-2013.12.21	清水 一道
Uday Nanda	インド	インド工科大学	2013.11.28-2014.1.3	平井 伸治
Rakshith Shetty	インド	インド工科大学	2013.12.3-2014.1.3	平井 伸治
Zhang Yao	中国	大連交通大学	2013.6.1-2014.2.28	清水 一道
Feng Yu	中国	華中科技大学	2014.3.25-2014.4.26	山路奈保子
Ding Ying	中国	華中科技大学	2014.3.25-2014.4.26	山路奈保子

### 13.3 外国人研究員受入れ

平成 24 年度より国際連携による共同研究等を展開することを目的として創設した室蘭工業大学重点研究経費(国際連携分)により、平成 25 年度は 6 名の外国人客員研究員を招へいた。また、日本学術振興会外国人特別研究員 1 名、その他 3 名を外国人客員研究員として受け入れた。

氏名	国	大学等	期間	事業名	受入教員
Mohamed Zakaria Abdel Hamid Hassan	エジプト	サウスバレー大学	2013.4.1-2015.3.31	日本学術振興会 外国人特別研究員	濱 幸雄
Zhu Lili	中国	大連交通大学	2013.4.1-2013.9.30	重点研究経費 (国際連携分)	樋口 健
Wu Pingping	中国	泉州師範大学	2013.4.1-2014.3.31		須藤 秀紹
Li Hui	中国	河南理工大学	2013.7.15-2014.7.15		山路奈保子
Rothlin Christina	スイス	スイス工科大学	2013.4.1-2013.8.30	重点研究経費 (国際連携分)	小室 雅人
Xinba Yaer	中国	内モンゴ工業大学	2013.8.9-2013.9.7	重点研究経費 (国際連携分)	清水 一道
Mandula	中国	内モンゴ師範大学	2013.8.25-2014.3.8	重点研究経費 (国際連携分)	岩佐 達郎
Li Li	中国	大連交通大学	2014.1.8-2014.3.8	重点研究経費 (国際連携分)	齊藤 務
Dai Gang	中国	内モンゴ師範大学	2014.1.22-2014.2.19		岩佐 達郎

## 14. 国際交流クラブ

国際交流クラブは、本学の公認課外活動団体(学生サークル)で、1994年に、その当時の留学生(院生)数人が中心となり、自分たちより年若い日本人の学生たちに、親睦と交流を呼びかける形で発足した。

当時は留学生の数がまだ少なく、またほとんどが修士か博士の大学院生、また家族随伴の留学生も多く、講座の研究室を除いては留学生と日本人学生(特に学部生)との接点や知り合う機会がほとんどないのが実情であった。当時の留学生は、せっかく日本に留学したのに日本人学生と交友を持つ機会が少ないことに残念さと危機感を持ち、学内に立って日本人学生にチラシを渡すところから活動を始めたのだった。

それに対して、意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され、以来20年以上が経過して留学生の数も出身国も増え、また学部生の留学生も増えたことから、現在は留学生・日本人合わせて部員が80人以上の大きなサークルとなった。

大学祭への参加や、お花見やジンギスカンなど、日本・北海道らしい活動をともにするほか、日常生活の中で留学生と日本人学生の交友・交流が見られるようになったのは、国際交流クラブの大きな功績といえる。また、留学生の母国を支援する教育基金の募金を行ったり、地震のような大きな災害があったときに日本人学生がともに募金活動を行ったりするような、社会性を持つ活動も行っている。

また、国際交流クラブの部員からの海外研修や海外インターンシップへの参加者、海外留学の希望者が確実に増えてきている。

国際交流センターも、国際交流センター専任教員が顧問教員を務めるほか、センターとして国際交流クラブの活動にさまざまな形で支援を行なっている。また国際交流センターが行う行事に国際交流クラブの部員が参加したり協力したり、海外研修などにも応募者を出すなど、国際交流センターと密に関係を保ちつつ、学生側の国際交流活動の窓口として、また主体として大いに活躍している。



新入生歓迎会

## 15. 広報活動

### 15.1 国際交流センターホームページ



日本語版トップページ



英語版トップページ

### 15.2 英文概要, 国際交流センターNews



英文概要



国際交流センターNews 5号

### 15.3 オリジナルグッズ



Tシャツ (表)



Tシャツ (裏)



フェイスタオル





ステッカー



ティッシュ



バック

#### 15.4 広報活動グッズ



旗



椅子カバー



## 16. 教員の研究活動

### 加賀屋 誠一

国際会議発表論文(査読付)

1) Seiichi Kagaya, Atsushi Takata: Analysis of Effects on Plan for Underground Pedestrian Corridor by Multi-Agent Simulation Model, Proceedings of the 25<sup>th</sup> Pacific Conference of the RSAI、2-4, July, 2013, Bandung, Indonesia, available on CD-ROM.

2) Seiichi Kagaya, Masato Sasaki: Development of Multi-Agent Simulation Model to Uncertain Civilian Return Trips during a Hypothetical Earthquake, Proceedings of 53<sup>rd</sup> ERSAC Congress, 27-31, August 2013, Palermo, Italy, Paper No. 1093.

口頭発表

1) 加賀屋誠一: 西胆振の観光ポテンシャルを活かす方途, 第42回ロータリークラブ2510地区都市連合会(IM)発表, 登別市, 2014年2月13日

2) 加賀屋誠一: 枯渇性エネルギーと再生可能エネルギー, テクニカルレポート, 低炭素社会実現に向けたシンポジウム, 室蘭市, 2014年3月23日

### 山路奈保子

○論文

1) 佐藤勢紀子・大島弥生・二通信子・山本富美子・因京子・山路奈保子: 学術論文の構造型とその分布—人文科学・社会科学・工学270論文を対象に—, 日本語教育154号, pp.85-99, 2013

2) 山路奈保子・須藤秀紹・李セロン: 書評ゲーム「ビブリオバトル」導入の試み—日本語パブリックスピーキング技能育成のために—, 日本語教育155号, pp.175-188, 2013

○研究報告

山路奈保子・因京子・藤木裕行: 日本人大学院生の書き言葉習得—初年次と3年次における調査結果の比較から—, 専門日本語教育研究第15号, pp.47-52, 2013

○研究発表(口頭発表)

1) 佐藤勢紀子・因京子・山路奈保子・山本富美子・二通信子: 日本語による学術的文章作成の指導法, 2013年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム, 2013年5月25日, 同済大学(中国・上海)

2) 山路奈保子・因京子・藤木裕行: 卒業論文作成が論文スキーマ形成におよぼす効果—日本人大学院生による作文の自己訂正の観察から—, 第16回専門日本語教育学会研究討論会, 2014年3月1日, 富山大学

○ワークショップ開催

佐藤勢紀子・因京子・山路奈保子・山本富美子・大島弥生「日本語による学術的文章作成および指導法」ノヴォシビルスク教育大学(ロシア), 2013年9月23日

○講演

山路奈保子「ビブリオバトルー書評ゲームでプレゼンテーション技能を磨くー」華中科技大学(中国・武漢), 2014年3月12日

○外部資金獲得

1) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「研究室コミュニケーションの円滑化をめざす日本語会話教材開発」(研究代表者)

2) 科学研究費補助金 基盤研究(B) 「研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発」研究代表者: 大島弥生 (研究分担者)

3) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「大衆文化作品を利用した看護コミュニケーション技能教育の方法開発」研究代表者: 因京子 (研究分担者)

4) 科学研究費補助金 基盤研究(C) 「グローバル化時代の自己表現のためのパブリックスピーキングに関する研究」研究代表者: 深澤のぞみ (研究分担者)

17. 国際交流センターに関する新聞記事等

このページには、国際交流センターに関する様々な新聞記事が掲載されています。記事の内容は、留学生の歓迎、生活の注意点、市民との交流、料理教室の開催、海外生活の挑戦など多岐にわたります。各記事には写真や見出し、本文が掲載されています。

**手巻きずしで留学生歓迎**  
 留学生の歓迎会が行われ、手巻きずしを堪能しました。

**手巻きずしウマイ**  
 留学生と日本人学生が交流し、手巻きずしを楽しみました。

**日本の生活 注意点学ぶ**  
 留学生向けに日本の生活習慣やマナーについての説明会が行われました。

**市民に作り方を講習**  
 市民向けに手巻きずしの作り方を講習しました。

**キョーザ交流 弾む会話**  
 キョーザ（朝鮮）との文化交流イベントが行われ、弾むような会話が続きました。

**世界の料理教室開催**  
 世界の様々な料理を学ぶための教室が開催されました。

**室蘭・登別の市民に感謝**  
 室蘭と登別の市民に対して感謝状が贈られました。

**本場のチヂミも調理**  
 本場のチヂミ調理法を学ぶためのワークショップが行われました。

**海外生活に せひ挑戦を**  
 海外生活への挑戦を奨励するイベントが行われました。

**「98歳」ジャズで祝う**  
 98歳の誕生日を祝うためにジャズ演奏が行われました。

**家族で聴きにきて**  
 家族で音楽会やコンサートを楽しむイベントが行われました。

**室工大国際体験報告会**  
 留学生の国際体験について報告する報告会が行われました。

**チヂミ作り文化交流**  
 チヂミ作りを通じて文化交流が行われました。

**海星学院高を訪問**  
 海星学院高校を訪問し、交流を行いました。

**室工大留学生・卒業生と**  
 室工大の留学生と卒業生との交流イベントが行われました。

**室蘭・国際交流推進協会の**  
 室蘭の国際交流推進協会に関する記事が掲載されています。





### 世界の

## 留学4年目 毎日が挑戦

「毎日、毎日が挑戦。最初は、言葉の壁、文化の違い、生活習慣の違いなど、大変なことが多かった。でも、今は、それらすべてが私の成長の糧になっています。毎日を精一杯生きています。」



## OB伊藤さん海外放浪の体感話す

「海外放浪は、想像以上に大変でした。でも、それは、自分の限界を押し広げるチャンスでした。今は、その経験が、私の人生に大きな影響を与えています。」



## 友好願いの花植え

「花を植えることで、心と心をつなげたい。国際交流の大切さを、みんなに伝えたい。」



## 創造的な研究者を目指す

「研究者として、創造性を発揮することが大切です。新しいアイデアを生み出し、社会に貢献したい。」

### 室工大大学院博士後期課程

## 留学生5人入学

「今年、5名の留学生が入学しました。多様な文化背景を持つ学生が集まることで、学びの幅が広がります。」



## 海外で感じた命や自然

「海外では、自然の美しさと人々の生き生きとした姿が、心に響きました。それは、私にとって大きな学びとなりました。」

「言語と文化の壁を乗り越え、国際交流の大切さを学びました。互いの文化を尊重し、協力して進んでいきたい。」



## 国際学術協定を更新

「国際学術協定を更新しました。これにより、国際的な学術交流がさらに促進されます。」

「言語と文化で交流推進。国際学術協定を更新。これにより、国際的な学術交流がさらに促進されます。」

## 韓国語や文化を指導する留学生

「韓国語や文化を指導する留学生が活躍しています。彼らの指導のおかげで、韓国語の学習が楽しくなりました。」

### 民衆

## 韓国語入門教室を開催

「韓国語入門教室を開催しました。多くの学生が参加し、韓国語の学習が盛んになりました。」



## 博士号取得めざす

「博士号取得をめざして、日々努力しています。研究を通じて、社会に貢献したい。」



### ウクライナの国立大副学長と学生

## 室工大で研究活動

「ウクライナの国立大副学長と学生が、室工大で研究活動を行いました。国際的な学術交流が促進されました。」



## 室工大で合金研究

「室工大で合金研究が進められています。最新の技術を用いて、高性能な合金を開発しています。」







### 世界の



## ジャズと室蘭が大好き

「ジャズと室蘭が大好き」のNISAさん。彼女は、ジャズと室蘭の魅力を多くの人に伝えるために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、ジャズと室蘭の文化を世界に広げています。

## 軽快なジャズで魅了

「軽快なジャズで魅了」のNISAさん。彼女は、ジャズの魅力を多くの人に伝えるために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、ジャズの文化を世界に広げています。

### ニサさんが歌声披露

「ニサさんが歌声披露」のNISAさん。彼女は、ジャズの魅力を多くの人に伝えるために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、ジャズの文化を世界に広げています。



ジャズの魅力を伝えるために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、ジャズの文化を世界に広げています。

## タイ伝統舞踊を披露

「タイ伝統舞踊を披露」のNISAさん。彼女は、タイの伝統文化を多くの人に伝えるために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、タイの文化を世界に広げています。



タイの伝統文化を伝えるために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、タイの文化を世界に広げています。

## 研究生生活実り多く

「研究生生活実り多く」のNISAさん。彼女は、研究生生活を通じて、多くの学びと成長を経験しました。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、研究生生活を世界に広げています。

### 張さん研究成果発表

「張さん研究成果発表」のNISAさん。彼女は、研究成果を発表し、多くの人々を魅了しました。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、研究成果を世界に広げています。



研究成果を発表し、多くの人々を魅了しました。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、研究成果を世界に広げています。

### 博士号取得に意欲

「博士号取得に意欲」のNISAさん。彼女は、博士号取得を目指し、多くの学びと成長を経験しました。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、博士号取得を世界に広げています。



博士号取得を目指し、多くの学びと成長を経験しました。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、博士号取得を世界に広げています。

## 日本の文化

「日本の文化」のNISAさん。彼女は、日本の文化を多くの人に伝えるために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、日本の文化を世界に広げています。



日本の文化を伝えるために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、日本の文化を世界に広げています。

## 留学生の門出祝う

「留学生の門出祝う」のNISAさん。彼女は、留学生の門出を祝うために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、留学生の門出を世界に広げています。



留学生の門出を祝うために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、留学生の門出を世界に広げています。

## 室工大 世界へ発信

「室工大 世界へ発信」のNISAさん。彼女は、室工大の魅力を多くの人に伝えるために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、室工大の魅力を世界に広げています。



室工大の魅力を伝えるために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、室工大の魅力を世界に広げています。

## 留学生を講師に楽しく

「留学生を講師に楽しく」のNISAさん。彼女は、留学生を講師として、楽しく活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、留学生を講師として世界に広げています。



留学生を講師として、楽しく活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、留学生を講師として世界に広げています。

## 北京科技大と交流強化

「北京科技大と交流強化」のNISAさん。彼女は、北京科技大学と交流を強化するために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、北京科技大学と交流を世界に広げています。



北京科技大学と交流を強化するために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、北京科技大学と交流を世界に広げています。

## 資源組み合わせ 観光の活性化を

「資源組み合わせ 観光の活性化を」のNISAさん。彼女は、資源を組み合わせ、観光の活性化を促進するために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、観光の活性化を世界に広げています。



資源を組み合わせ、観光の活性化を促進するために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、観光の活性化を世界に広げています。

## PM2.5対策

「PM2.5対策」のNISAさん。彼女は、PM2.5対策を推進するために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、PM2.5対策を世界に広げています。



PM2.5対策を推進するために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、PM2.5対策を世界に広げています。

## 資源組み合わせ 観光の活性化を

「資源組み合わせ 観光の活性化を」のNISAさん。彼女は、資源を組み合わせ、観光の活性化を促進するために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、観光の活性化を世界に広げています。



資源を組み合わせ、観光の活性化を促進するために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、観光の活性化を世界に広げています。

## 資源組み合わせ 観光の活性化を

「資源組み合わせ 観光の活性化を」のNISAさん。彼女は、資源を組み合わせ、観光の活性化を促進するために、様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、観光の活性化を世界に広げています。



資源を組み合わせ、観光の活性化を促進するために、NISAさんは様々な活動を行っています。彼女の活動は、多くの人々を魅了し、観光の活性化を世界に広げています。

## 18. おわりに

国際交流センター准教授 山路奈保子

2014年、室蘭工業大学の留学生数は123名に達しました。前年比7%増、過去最高です。私たち国際交流センタースタッフの地道な努力が実って、と言いたいところですが、実のところ、最大の要因は入試の日程が変わったこと、らしいです。日本全体の留学生数は2013年5月時点で135,519名、東日本大震災以来2年連続の減少です。ただ留学生予備軍といえる日本語教育機関の在籍者はV字回復を見せており、2014年には留学生数も増加に転じているのではないかと思います。本学の留学生数も増加傾向が続くことでしょう。それは嬉しいことですが、一方で、従来の受け入れ体制では限界があることを痛感しています。新たに来る留学生には、メールで住居の希望を聞き、室蘭入りの予定を尋ね、来日する学生のためには空港への迎えを手配し、室蘭に着いたら車で迎えに行き、新居に送り届け、もろもろの手続きの書類を書かせ、市役所へ連れて行き…と、これをひとりひとりについてやるわけですが、今年はそれが40名分(去年は30名)。かつ、昨年までと比べて留学生の出身がてんでばらばらだったものだから、担当スタッフ(1名!)は頭を抱えておりました。人員を増やすか、それが叶わなければ何か効率的にやる方法を考えなければ、とても対応できるものではありません。ただ、入学前から個人対個人で対応してもらえることが、見知らぬ土地でも安心して新生活をスタートするための大きな安心材料になることは、他大学の調査などでも明らかです。効率ときめ細かい対応、それらをいかに両立させるかが、今後の留学生増加が見込まれる中での大きな課題です。

さて、昨年6月に閣議決定された「日本再興戦略」では、「2020年までに外国人留学生の受け入れを14万人から30万人に倍増」という従来からの計画に加え、「2020年までに海外への大学生等の留学を6万人から12万人に倍増」と、これまた大層強気な計画が謳われています。それに伴い、新たな留学支援制度も創設され、意欲ある学生にはよりチャンスが増えました。本学でも、留学や、留学につながる海外での短期研修への参加を支援する独自の制度を着々と整えてきましたし、本学から参加できる短期研修プログラムもバリエーション豊かになりました。はるか昔、大学主催のプログラムなど皆無で、自分で短期語学研修プログラムを探し、渡航手続きも航空券購入も自分でやり、もちろん全額自費で参加した私からみると、今の学生は海外へのハードルが低く、恵まれていて羨ましい限りです。加えてもうひとつ、昔と違って羨ましいのは、SNSがあることです。現地で仲良くなった人とその後につながる方法は、昔は「文通」しかありませんでしたから、関係が続けるにはそれなりの根性が必要でした。今、海外研修に参加した学生たちが、研修先の学生たちと拙い英語や日本語で楽しそうにやりとりしているのをfacebookでのぞき見しつつ、いい時代になったものだとしみじみ思います。政府の思惑通りに留学者数が増えるかどうかは別として、より多くの学生に、こんないい時代の恩恵をたっぷり味わってほしいと願っています。



室蘭工業大学

MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

室蘭工業大学 国際交流センター

〒050-8585 室蘭市水元町27番1号

<http://www.muroran-it.ac.jp/>

E-mail: [kokusai@mmm.muroran-it.ac.jp](mailto:kokusai@mmm.muroran-it.ac.jp)

TEL : (0143) 46-5885

FAX : (0143) 46-5889 